

ル時ハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ左ノ規則ニ據リ假ニ出場ヲ許スコトヲ得
假出場規則

- 第一條 假出場ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受ク可シ
- 第二條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ本人ニ下付ス可シ
- 第三條 假出場證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ
 - 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所懲治期限及ヒ宣告并ニ滿期ノ年月日
 - 一 殘期何年何月何日何年何月何日起
 - 一 本日出場ヲ許スニ由リ住居ノ地ニ歸著ノ上ハ即時所轄警察署ニ其旨ヲ届出ツ可シ
 - 一 毎月一回謹慎ヲ表スル爲メ所轄警察署ニ到リ假出場證票ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受ク可シ
 - 一 但已ムヲ得サル事故アレハ其事由ヲ届出ツ可シ
 - 一 一日程ヲ過クル地ニ旅行スル時ハ其行先并往復滞在日數等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出ツ可シ
 - 一 但其滞在一月以上ニ渉ル時ハ一箇月毎ニ其滞在地ノ警察署ニ到リ前項ノ手續ヲナス可シ
 - 一 事故アリテ其住居ヲ轉スル時ハ所轄警察署ニ届出ツ可シ
 - 一 第三項以下ノ事ハ本人自ラ爲ス能ハサル場合ニ於テハ親屬故舊代リテ之ヲ爲スコトヲ得
- 右ノ各項ニ違背シタルトキハ直チニ出場ヲ停止シ出場中ノ日數ヲ懲治期限内ニ算入スルコトヲ得ス
- 第四條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ假出場證票及懲治申渡書ノ謄本ヲ具シ本人住居ノ地ノ警察署ニ通知スヘシ
- 第五條 警察署ニ於テ轉居ノ届ヲ得タル時ハ之ヲ其轉居地ノ警察署ニ通知シ第四條ニ記載シタル書類ヲ遞送スヘシ
- 第六條 假出場ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ尙ホ懲治場ニ留置シテ他ノ懲治者ト殿ニ別

- 異ス可シ但住居遠地ニアリテ歸着スルノ資力ナキ者モ亦同シ
- 第七條 假出場ヲ停止スヘキ時ハ本人住居ノ地ノ典獄ニ於テ其旨ヲ言渡シ直チニ假出場證票ヲ取上ケ其殘期ヲ執行ス可シ但甲地方ニ於テ下付セシ證票ヲ乙地方ニ於テ取上ケタル時ハ其事狀ヲ甲地方典獄ニ通知シ證票ヲ送致ス可シ
- 第八條 假出場ヲ許サレタル其懲治期滿限ノ日ニ到レハ假出場證票ヲ所轄警察署ニ還納シ該警察署ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ之ヲ遞送スヘシ

○看守及監獄備人ノ分掌例 明治二十二年六月二十六日 内務省訓令第二十九號

看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改ム

第一章 看守ノ職務

- 第一條 晝夜交替シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ
- 第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
- 第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
- 第四條 在監人ノ郷貫、氏名、年齢、罪質、刑名等ヲ記憶スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ
- 第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ
- 第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラムヘシ

- 第七條 新ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ
- 第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス
- 第九條 監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ
- 第十條 工場、器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
- 第十一條 炊場、浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
- 第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取糺シ其證據ヲ明舉シテ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十三條 密室監禁者及屏禁、閤室、獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ觀察シ其狀況ヲ看守長若クハ看守副長ニ具申スヘシ
- 第十四條 戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正不良ノ所爲ナカラシムヘシ
- 第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ迫ナキトキハ救護ノ爲メ一時房外ニ出スコトヲ得
- 第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ

- 但事急遽ニ出テ擱キ難キトキハ直ニ追跡スルコトヲ得
- 第二十一條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第二十二條 監房、炊場、浴場、厠圍、工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ
- 第二十三條 押丁、授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ觀察シ若シ相狃ル、モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第二十四條 監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ
- 第二十五條 在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ路人ト聲語シ又ハ之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシムヘシ
- 第二十六條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スヘシ
- 第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ
- 第二章 教誨師ノ職務
- 第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ專ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從事シ又懲治人及十六歲未滿ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス
- 第二十九條 新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受クヘキ者アルトキハ其者ニ對シ特ニ教誨ヲ爲ヘシ其出獄スルトキモ亦同シ
- 第三十條 在監人ノ起居、動靜、勤怠及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條 監房ヲ巡廻シ修身齊家ノ講談ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條 懲治人ノ就學、年月、卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第三十三條 在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報告スヘシ

第三十四條 獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ視察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條 受罰者ニシテ改悛ノ狀顯著ナルヲ認知セシトキハ典獄ニ具狀スヘシ

第三十六條 授學上及教誨上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條 特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報告スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名、病性、徵候、治否、及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚新ニ入監スルトキハ其體質ヲ檢查シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡廻シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ

形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ閉室等ノ懲罰ニ處セラルヘキ者ヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者攝生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 患者癡篤疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄並ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原由及病症、死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ檢查シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械並ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ檢查スヘシ

第四章 女監取締ノ職務

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 看守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス
第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ
第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五章 押丁ノ職務

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ
第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ從事スヘシ
第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ檢査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ
第六十七條 看守ノ立會ヒテ受ケ食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ
第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ
第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒテ受ケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲナスヘシ
第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ
第七十二條 獄具及消防具等ヲ監守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ
第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ
第七十六條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルトキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ
第七十七條 炊場浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第六章 授業者ノ職務

第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ
第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ
第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ
第八十一條 授業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ
第八十二條 授業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ
第八十三條 授業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ
第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ
第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

○刑事被告人及囚人ニ係ル費用ノ件 明治二十三年十月三十一日 内務省令第五號

重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送

還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○消防組規則 明治二十七年二月九日 勅令第十五號

朕消防組規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三十年勅令第
四百八號ヲ以
テ第一條以下
改正

消防組規則

- 第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得
- 第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
- 消防手ハ警察署長之ヲ命免ス
- 第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス
- 小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス
- 第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ設部ニ分ツコトヲ得
- 第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス
- 消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若クハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警戒ニ應援スヘシ
- 危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警戒ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス

- 第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ
- 第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得
- 第十一條 消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム
- 第十二條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム
- 前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ
- 第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス
- 第十四條 (刪除)
- 第十五條 (刪除)
- 第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム
- 第十七條 此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス但第七條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス
- 第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ
- 第十九條 東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

○出版法 明治二十六年四月十三日 法律第十五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版法

第一條 凡ソ機械舎密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作為スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣預布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版局ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼スルコトヲ得

第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫真ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記

ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム
第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看
做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版届ニ署名シタル
代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出
版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得
ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ内務大臣
ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル
トキハ内務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得

ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ
其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ
之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セ
サル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發行者、印刷
者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕
禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發
行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未
タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フ

ルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弁ス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

○版權法 明治二十六年四月十三日

法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル版權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

版權法

第一條 凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版法ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ケムト欲スル者ハ發行前登錄料トシテ製本六部ノ定價ヲ添へ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但シ六部ノ定價合シテ五十錢ニ滿サルモノハ五十錢トシ十圓ヲ超ユルモノハ十圓トス

版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ版權登錄後定價ヲ増加スルモノハ其ノ未納額ヲ内務省ニ追納スヘシ但シ追納額ハ最初ノ納額ト通算シテ十圓ニ至テ止ム

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ヲ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ内務省ニ通知スヘシ第五條 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ登錄ヲ經タル文書圖畫ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限ニ在ラス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ官廳、學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス

二種以上ノ著作若ハ講義演説ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス

書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

版權登錄證書ニ認認アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ誤ハ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテ

ヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書并ニ著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス但シ其ノ都

度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改

メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖書ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖書ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖書ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セムト欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙

ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ

之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權

ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論説、記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖特ニ

一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年内

ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖已ニ

一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ偽版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ

寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣頒布ヲ差止ムルコ

トヲ得但シ審理ノ末偽版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償

ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ偽版ヲ以テ論ス
他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演說ヲ筆記シ其ノ許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ模擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作人又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時効ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタルモノハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖之ヲ改竄シテ著作人ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作人ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作人又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條 従前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ従前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

○脚本樂譜條例 明治二十年十二月二十八日 勅令第七十八號

脚本樂譜條例 朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ與

行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

- 第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得
- 第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ
- 第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

○寫真版權條例

明治二十年十二月二十八日 勅令第七十九號

朕寫真版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

寫真版權條例

- 第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫真ト云ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ
- 第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノ、寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス
- 囑托ニ係ル寫真ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫真師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス
- 第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登

録ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス

- 第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス
- 第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ
- 寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス
- 第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス
- 第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡讓渡スコトヲ得
- 第八條 版權ノ保護ヲ受ル寫真ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ増製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受ケスシテ囑托ニ係ル寫真ヲ増製スルコトヲ得ス
- 第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム
- 損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス
- 第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫真又ハ摸寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス
- 第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

○出版及版權ニ關スル願届手續 明治二十六年四月廿日 内務省令第七號

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通り之ヲ定ム

出版及版權ニ關スル願届手續

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖書ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ

第三條 他人ノ書書ヲ臨寫シ若クハ摹寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スル者ハ其紙面中ニ臨寫若クハ摹寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ

第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(何年月日内務省許可)ト記載スヘシ但明治二十年ノ勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タルモノ亦同シ

第五條 出版法第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ豫メ大約一箇年内出版ノ分隨意取束メ版權登錄ヲ願出ツルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ届書ニ添付ス可シ

第七條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式雜誌版權登錄ハ第四書式寫真版權登錄願ハ第五書式版權登錄再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ

第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得ヘキモノニシテ其許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登錄願出ルトキハ其旨ヲ届書又ハ願書ニ記スヘシ

非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其届書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ

第九條 專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラント欲スル者ハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第八書式ニ依ル可シ

第十條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ依ル

第十一條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年一内務省令第二號明治二十三年三同省令第一號明治二十五年三同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス (書式略ス)

○舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者免狀毀損紛失等ニ關スル件

明治二十一年四月二日 内務省令第三號

第一條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者其免許狀ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ其事由ヲ記シ證明書ノ下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五拾錢ヲ同省ニ納ム可シ

第二條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得未タ出版セサル圖書ニシテ自今出版ノモノハ其製本ニ何年月日版權免許ト記載シ改正出版條例第三條ニ依リ届出ヲナスト同時ニ舊出版條例第二十條ノ免許料ヲ内務省ニ納ムヘシ

第三條 (二十五年三月省令第三號ヲ以テ削除)

○新聞紙條例 明治二十年十二月廿八日 勅令第七十五號

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
- 二 記載ノ種類
- 三 發行ノ時期
- 四 發行所及印刷所
- 五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ

届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス 公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼スルコトヲ得ス 第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ納ムヘシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
- 一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
- 一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得 學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差

止ヘシ

第十一條 新聞紙ハ毎號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ
發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル常人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得
正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ常人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ
第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

第十八條 刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル罪犯人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス
公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス
(三十年法律第九號ヲ以テ削除)

第二十條 (同上)

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得(全上改正)

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ(同上)

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サヌ又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(全上)

第三十二條 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス(全上號ヲ以テ追加)

第三十三條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ヲ犯シタル者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス(全上號ヲ以テ改正)

第三十四條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(全上)

第三十五條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第三十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十七條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス
第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版例條ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

衛生

○傳染病豫防法 明治三十年三月三十日

法律第三十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スル虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布)及「ベスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貨席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近鄰ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近鄰ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長又ハ管理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條

傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村ノ限ニ在ス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上

必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ

擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該委員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト
二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト

四 古著、襤褸、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ汽車船舶若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠附ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 豫防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
- 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六 第八條ニ依レル交通遮断ニ關スル諸費及交通遮断ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者或死者ニ關スル諸費
其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

一 檢疫委員ニ關スル諸費

二 船舶又ハ汽車ノ檢疫ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮断ニ關スル諸費及交通遮断ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費

其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ期限内ニ施行

シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ期限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者第五條第二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮断ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第二十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○傳染病豫防法施行規則 明治三十年五月一日 內務省令第十一號

傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ隣接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長以下之ニ做フ) 戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ做フ) 又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ

届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告シ郡長市長島司又ハ區長ハ府縣廳ニ報告スヘシ

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府廳ニ報告スヘシ)

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第四條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員第二條ニ依リ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ家ニ臨ミ清潔方法消毒法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第五條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條又ハ第十九條第二ニ依リ左ノ日時間交通ヲ遮斷スルコトヲ得但第十九條第二ニ依リ交通ヲ遮斷スルハ特ニ府縣知事(東京府知事發視總監)ノ命アル場合ニ限ル

虎列刺
赤痢

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法

ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿五日間
發疹蜜扶私

「ベスト」

患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿七日間

前項ノ場合ニ於テ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ交通遮斷ニ關スル事務ニ從事スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戸長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ

三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ

第八條 傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證票ハ左ノ如シ

凡三寸

木札 表凡
又ハ 裏一
厚紙 面寸
傳染病豫防吏員之證

面 表
官廳公署印

第十條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規程ヲ準用ス

第十三條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徴收スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ設備セシムルコトヲ得

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書)及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ他傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣ニ關シ必要

ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知事之ヲ定ム

島地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

○傳染病豫防法第六條ニ依レル清潔方法消毒方法

明治三十年五月六日
內務省令第十三號

傳染病豫防法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法左ノ通定ム

第一章 清潔方法

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ焼却スヘシ
- 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ
- 四 傳染病豫防法第五條第二項ノ場合ニ於テハ前各號ヲ準用スヘシ
- 第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰末若クハ石灰)ヲ投シタル後浚深スヘシ

第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚深ヲ爲ス場合ニ於テハ

濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却
- 二 蒸汽消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病患者若クハ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシテ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ

第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類
- 二 硝子器、陶器、磁器其ノ他鑲製若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第八條 蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス
一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護膜製品、護膜附品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

二 被服類ニ蒸汽消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣袋中ヲ検索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

三 蒸汽消毒ハ流通蒸汽ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸汽消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑並其ノ用法ハ左ノ如シ

一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ

二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ

三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ十二時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

二 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ

昇汞水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ速キ易キ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カン爲メ凡十萬分一ノ「フロキシソ」ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス

昇汞水ハ陶器、硝子器又ハ木製器具ノ消毒ニ用フヘシ飲食器、玩具、疊、敷物ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス

生石灰 少量ノ水ヲ滴クハ熱ヲ發シテ崩壊スルモノ

生石灰末 生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末下爲シタルモノ

三

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠、芥溜、床下等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ渠溝、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ在テハ其ノ全面ニ撒布スヘシ

石灰乳(十倍) 生石灰一分、水九分

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ生石灰末ノ五倍トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス

普通石灰ヲ生石灰末石灰乳ニ代用スル場合ニハ倍量ヲ用フヘシ

木灰ハ生石灰石灰等ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物赤痢病患者腸窒扶私病患者ノ排泄物ノ消毒ニ代用スルコトヲ得其ノ用量ハ吐瀉物排泄物ノ五分一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物排泄物ノ同容量トス但石灰炭灰ハ木灰ト同一ノ效ナシトス

四

格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分、水九十五分

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ
第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

第一 患者

傳染病患者治愈シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭
淨シ入浴ニ代ユルモ妨ケナシ

第二 死體

傳染病ノ死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ被服ニ昇永水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇永水若ク
ハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰若クハ木灰ヲ以テ填ツヘシ

第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病者ニ觸接シタル者

看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病者ニ觸接シタル
者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四 患者、死體等ノ運搬器

傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル籠籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇永水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭
スヘシ

第五 便所、芥溜、溝渠等

傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格
魯兒石灰水ヲ灌キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間
ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得
病者ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ消毒スヘシ

病者ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ其ノ塵芥ハ燒却スヘシ
病者ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌クヘシ

第六 衣服器具敷物等

傳染病患者ノ着用セル衣類臥具並其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類
其ノ他病者汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ曹達石鹼(毛皮ニハ避クヘシ)ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭
淨シ若クハ之ヲ撒布スヘシ

第五條ニ掲ケル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニテ乾燥セシ
ムヘシ

第七 患者ノ居室

石炭酸水若クハ昇永水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥
セシムルヲ要ス

第八 汽車

傳染病患者若クハ死體アリタル汽車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物
對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スヘシ

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒
藥ノ撒布擦拭等適宜處置スヘシ

船底水ニハ其ノ容量二百分一ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後汲出サシムヘシ

○汽車檢疫規則 明治三十年七月十九日 內務省令第十九號

傳染病豫防法第十八條ニ依リ汽車檢疫規則左ノ通定ム

汽車檢疫規則

第一條 府縣知事東京府ハ警視總監ハ汽車檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ 檢疫施行ノ停車場及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳東京府ハ警視廳ニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス但官設鐵道ノ停車場ニ於テ檢疫ヲ施行スルトキハ逡信省ニモ申報スヘシ

關係府縣廳東京府ハ警視廳ニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者ハ之ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受入ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年九月布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ進シ市町村長區長沖繩縣區長又ハ戶長戶長ニ準スヘシヲシテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第三條 汽車檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルトコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第四條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者死者ト同車室ニ在ルカ否サルモ病汚染ノ虞アル乘客及手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒方法ヲ施行スヘシ

第五條 傳染病患者又ハ死者アリタル車室ヘ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行スヘシ此ノ場合ニ於テハ鐵道掛員ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルトコトヲ得

傳染病患者又ハ死者ナキ車室ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルトコトヲ得

第六條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキ其ノ停車場ニ於ケル設備ノ都合等ニ依リ前數條ニ規定シタル事項ヲ施行スルト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ手當ヲ爲シ該車室ノ出入口ヲ閉鎖シテ乘客ノ出入ヲ止メ他ノ停車場ニ至リ其ノ處置ヲ爲スヘシ

第七條 檢疫掛員ニ於テ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ列車ニ乗込ミ又ハ必要ナル通信ヲ驛長若クハ掛員ニ求ムルトコトヲ得無償乗車ノ場合ニ於テハ官職氏名ヲ記シタル證票ヲ驛長若クハ掛員ニ示スヘシ

附則

第八條 汽車檢疫施行中府縣知事東京府ハ警視總監ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル汽車ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第九條 明治二十三年內務省訓第四五二號汽車檢疫心得ハ廢止ス

○汽車檢疫心得 明治二十七年七月四日 內務省訓令第四九七號

汽車檢疫心得左ノ通相定ム

汽車檢疫心得

- 第一 地方長官ハ鐵道線路中ノ重モナル停車場例之ハ東海道鐵道線路ニテハ橫濱國府津沼ニ檢疫掛員掛員中ニハ津靜岡濱松豐橋名古屋等ノ停車場ヲ云フニ檢疫掛員掛員中ニハハヲ派出シ消毒藥、消毒器具、患者運搬器其他救急ノ方藥ヲ備ヘ置クコト
- 第二 凡ソ停車場ニハ消毒藥ヲ備ヘ置カシムルコト
- 第三 汽車中ニ成列刺病又ハ成列刺病ニ疑ハシキ患者若クハ死者アリタルトキハ檢疫掛員ハ左ノ處置ヲ爲スコト但檢疫掛員ノ派出ナキ停車場ニシテ患者死者ノ取扱及ヒ消毒法ノ施行ヲ爲シ能ハサル場合ニ在テハ鐵道掛員ニ於テ即時警察官吏又ハ市町村吏員ニ報知シテ適應ノ處分ヲ乞フコト
- 一 患者ハ避病院又ハ檢疫掛員ノ適當ト認ムル場所ニ之ヲ送付スル等相當ノ取扱ヲ爲スコト
- 二 死者ハ消毒ノ上相當ノ處分ヲ爲スコト
- 三 患者死者ト同車室ニ在リタル乗客ハ悉ク下車セシメ其車室ハ若シ吐瀉物現ニ在スルトキハ其上ニ生石灰、砂、石灰炭屑ノ類ヲ撒布シテ其浸滲ヲ防キタ後之ヲ閉シ見易キ徵票ヲ貼布シ其車室ヲ交換シ得ヘキ停車場ニ至リ之ヲ取離シテ消毒法ヲ行ハシムルコト
- 四 前項下車セシタル乗客中病毒附著ノ虞アル者及ヒ手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒法ヲ行ヒ其他ハ別車室ニ移シ直ニ發セシムルコト
- 第四 患者死者アリタル車室ノ消毒ハ先ツ吐瀉物ヲ取除キテ之ヲ燒却シ機關車火爐内ニ次ニ石灰乳十倍ノ用又ハ石炭酸水ノ十倍ノ用ヲ以テ丁寧ニ拭淨シ更ニ淨水ヲ以テ再ヒ淨拭スルコト但其車室ニ附屬スル便所モ同様消毒スルコト

○船舶檢疫規則 明治三十年七月十九日
 內務省令第二十號

傳染病豫防法第十八條ニ依リ船舶檢疫規則左ノ通定ム

船舶檢疫規則

- 第一條 府縣知事東京府ハ警視總監船舶檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ場所及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關係府縣廳東京府ハ警視廳ニ通知スヘシ其廢止ノトキ亦之ニ準ス
- 關係府縣廳東京府ハ警視廳ニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ
- 第二條 府縣知事東京府ハ警視總監ノ指定シタル地方ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經テ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ檢疫掛員ノ尋問又ハ檢査ヲ受ケ其ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ乗客乗組人ヲ上陸セシメ又ハ積荷手荷物ノ陸揚ヲ爲スヘカラス
- 航行中又ハ現ニ傳染病患者若クハ死者ナキ船舶ニハ直ニ前項ノ許可ヲ與フルコトヲ得
- 第三條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶及停留中ノ船舶ハ黃旗ヲ前橋ニ掲揚スヘシ但檢疫掛員ノ許可ヲ得ル迄ハ之ヲ下スヘカラス
- 第四條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ港内適當ノ場所ニ停留セシメ其ノ船舶ノ乗客乗組人ニハ消毒方法ヲ施行シ停留所船中其ノ他適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得
- 前項停留ノ日時ハ傳染病豫防法施行規則第六條交通遮斷ノ日時ニ準ス停留中新タニ患者ヲ發シタル

トキハ其ノ處置ヲ了シタル時ヨリ起算シ更ニ同期間停留ヲ繼續スルコトヲ得
檢疫掛員ニ於テ消毒方法ヲ施行スルトキハ乗組人ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシム
ルコトヲ得

第五條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ乗客乗組人中患者死者ト飲食起臥ヲ共ニシタ
ル等ニ依リ檢疫掛員ニ於テ病毒感染ノ虞アリト認ムル者ノ外ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ上陸ヲ
許可スルコトヲ得

第六條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ陸
揚ヲ許可スルコトヲ得但檢疫掛員ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認ムル積荷手荷物ニハ消毒セサルモ妨
ケナシ

第七條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ
收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年九月布告第四十九號行旅死亡人取
扱規則ニ準シ市町村長、區長、沖繩縣又ハ戶長長ニ準シテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二
條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第八條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタ
ル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身
元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限り發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵
收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ
第九條 消毒方法ヲ施行スヘキ船舶ハ其ノ港ニ於ケル消毒設備ノ都合等ニ依リ他ノ港ニ回航セシムル

コトヲ得

第十條 檢疫掛員ハ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ船舶ニ乗込ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ
船長若クハ事務員ニ其ノ旨ヲ通告スヘシ

第十一條 傳染病患者又ハ死者ナキ船舶ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部
ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

附 則

第十二條 船舶檢疫施行中府縣知事東京府ハ警視總監ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル船舶又ハ其ノ港ニ碇
泊中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第十三條 府縣知事東京府ハ警視總監ハ大和船漁船等ノ檢疫ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第十四條 明治十四年内務省達乙第四十九號傳染病豫防規則第十三條船舶検査手續ハ廢止ス

○檢疫委員設置規則 明治三十年六月五日 内務省令第十五號

傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員設置規則左ノ通定ム

檢疫委員設置規則

第一條 檢疫委員ハ廳府縣郡島廳ノ官吏醫師藥劑師等ニ就キ府縣知事東京府ハ警視總監以下之ニ依リ之ヲ命ス
警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第二條 檢疫委員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ傳染病豫防事務ノ監督廳府縣ニ於テ施行スル船舶汽車ノ檢疫

檢疫委員設置規則

其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事務ニ從事ス

第三條 檢疫委員ノ設置及廢止ハ之ヲ告示スヘシ

第四條 檢疫委員ノ組織及職務ハ第五條以下ニ準據スヘシ但應府縣ノ本廳ニ限り檢疫委員ヲ置キ又ハ郡市島ニ限り檢疫委員ヲ配置スルモ妨ナシ

第五條 應府縣ノ本廳ニ檢疫委員長一人ヲ置ク但必要アルトキハ副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員長ハ警部長警視廳ハ警視總監ハ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第六條 府縣知事ハ郡市島ニ檢疫委員事務所ヲ置キ其ノ郡市島内ニ屬スル第二條ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 檢疫委員事務所ニ所長一人及副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員事務所長ハ郡長島司又ハ警察署長ニ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第八條 檢疫委員ノ職務章程ハ府縣知事之ヲ定ム

○傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程

明治三十年五月一日
拓殖務省令第五號

傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程左ノ通相定ム

第一條 傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程

ニ從ヒ區ニ於テハ區會議員及町總代人又ハ區住民中又町村ニ於テハ町村總代人又ハ町村住民中ヨリ

區長戶長之ヲ選任ス

前項ノ外醫師ヨリ出ツル豫防委員ノ任命モ亦本文ニ準ス

第二條 傳染病豫防委員ハ區長戶長ノ指揮ヲ承ケ其區町村ニ於ケル豫防救治ニ關スル事務ヲ擔任ス

第三條 豫防委員ノ職務規程ハ區ニ於テハ區長之ヲ定メ北海道廳長官ノ認可ヲ經テ之ヲ施行シ町村ニ於テハ戶長之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス

第四條 傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員設置ノ必要ヲ認ムルトキハ北海道廳及郡區官吏醫師等ニ就キ北海道廳長官之ヲ命ス

第五條 北海道廳長官ハ檢疫委員ノ中委員長一人ヲ置キ部下ノ諸員ヲ監督シ庶務ヲ整理セシム

第六條 北海道廳長官ハ必要ト認ムルトキハ管内ニ出張所ヲ置キ檢疫委員ヲ派遣シ檢疫事務ヲ分擔セシムルコトヲ得

第七條 檢疫委員ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ傳染病ニ關スル豫防救治及汽車船舶ノ檢疫ヲ擔任ス

第八條 檢疫委員ノ職務章程ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第九條 本則ニ規定スルモノ、外必要ナル事項ハ北海道廳長官之ヲ定ム

○傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件

明治三十年七月十五日
內務省令第十八號

傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件左ノ通定ム

府縣知事ハ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ對スル補助ニ關シ左ノ各項

傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程
傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件

- ニ依リ規程ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額ニ對シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町村ニ補助スル歩合ハ精算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但支出ニ伴フ收入アルトキハ支出總額ヨリ其ノ收入ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得
- 二 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シテ別段ノ補助歩合ヲ定メ又ハ指定シタル費途ニ限り補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジテ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但本項ニ依リ算出シタル補助ノ金額前項六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一迄増額シ二分ノ一ヲ超ルトキハ二分ノ一迄減額スヘシ
- 三 市町村ノ支出額其ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ二分ノ一以上全部迄ヲ補助スルコトヲ得
- 四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但金額ニ換算スヘシ

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

明治十五年六月二十三日
太政官布告第三十一號

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但検査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ九日以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ船舶、船客、乗組人及ヒ積荷ニ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得(十八年第二十九號布告及廿七年勅令第七十號ヲ以テ追加改正)

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

但検査官ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ其船舶、船客、乗組人ヲ九日以内其指定スル場所ニ停留セシムルコトヲ得(廿七年勅令第七十號ヲ以テ追加)

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハシ若キハ其遺體ニ隨ヒテ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及ヒ傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分ス可シ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度「内務卿」ヨリ之ヲ指定ス可シ

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續
明治十六年六月十四日
内務省達丙第三號

昨十五年太政官第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則第五條ニ據リ該規則施行ノ義當省ヨリ相達候節内外國船舶トモ検査ノ義ハ左之手續書ニ據リ可取扱此旨相達候事

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續

- 一 船舶入港スルトキハ檢疫官少クモ二名速ニ其船舶ニ到リ(外國船ニ到ルトキハ英語通辯者一名ヲ伴ヒ且檢疫官タルノ證書甲號書式ニ據ルヘシ但檢疫官ヲ船長ニ示シタル後)虎列刺病流行地方ヨリ來ルルキ否ヲ問ヒ該地方ヨリ來レルモノハ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ同病ニ罹リシ死屍アラサルヤ否ヲ尋問スヘシ若シ必要ト認ムルトキハ自ラ船内ヲ巡檢スヘシ
 - 一 船舶航海中ニ於テ船内ニ虎列刺病患者若ハ其死屍ナキコトヲ信認スルトキハ(外國形船舶ノ多人數旅客ヲ搭載スルモノハ船長ニ要求シテ其船中ノ健康ヲ證明スル書面ヲ出サシメ)直チニ規則第二條ニ據リ許可ノ證書乙號書式ニ據リ船長ニ與フヘシ其患者若クハ死屍アルトキハ規則第三條ニ據リ之ヲ處置シ先ツ乗組人船客ノ上陸ヲ許可スルノ證書丙號書式前段ヲ船長ニ與ヘ次ニ船舶積荷ノ消毒法全ク終リタル上ハ本條末項ニ據リ進航交通等ヲ許可スルノ證書丙號書式後段ヲ速ニ船長ニ與フヘシ
 - 但内海ノ諸港ヲ往復スル内國小蒸汽船及ヒ日本形小船等ノ如キハ別ニ簡易ノ檢査手續ヲ設ケ之レニ與フル證書ハ必シモ乙號丙號ノ書式ニ據ラス簡易ノ證書式ヲ用フルモ苦シカラズ
 - 一 内外國軍艦モ亦檢査ノ手續ヲ爲スヘシト雖艦長及醫官ニ於テ其航海中ニ虎列刺患者若クハ其死屍ナキコトヲ證明スルトキハ其證明書ヲ要求スルニ止メ其患者若クハ死屍アルトキハ艦長及醫官ト協議ヲ遂ケ規則ニ準據シテ相當ノ處置ヲ爲スヘシ規則第二條及第三條許可ノ證ハ共ニ交付スルニ及ハス
 - 一 十五年第三十一號布告ノ全文ヲ英文ニ譯シ謄寫若クハ印刷シ置キ檢疫官外國船ニ到ルトキハ之ヲ携ヘ行キ其船長ニ一部宛交付スヘシ
- (以下證書式畧ス)

○檢疫停船規則

明治十二年七月二十一日
太政官布告第二十九號

明治十二年七月二十八號布告海港虎列刺病傳染預防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則ト改稱候條此旨
布告候事

(別冊)

檢疫停船規則

- 第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンタメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルコトヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ命スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス
- 第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ
- 都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ
- 第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所并ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ
- 第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前檢査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クトモ二名ヲ派出シテ之ヲ檢査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ
占居シタルトキ又ハ他ノ事項ニ依テ病毒ニ感染シタル恐アルトキハ其検査ヲ受クヘシ
檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名録ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスコトヲ得
ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該
船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中
眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルトキハ該
船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ

軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦
ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルトキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル
カ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆
ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方
檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルトキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルトキハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ
一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサル
ヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危險ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ
消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル
迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルトキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條

第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内
艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシコトナク又ハ病毒ニ感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎
列刺病又ハ疑似症ヲ發セシコト無キ旨ヲ明告スルトキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、
ルトキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ檢疫官吏ニテ指示シ
タル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ
船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ
於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル
程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日
以上アルトキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ
第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容體ニ依リテ之ヲ避
病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ済マサルトキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ
又ハ關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ

患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒ニ感染ノ
恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ
人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行

フヘシ船内ニ残りタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルコトヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ
病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ
避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ
患者ハ醫師ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス

第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置コトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移ササルコトアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ原因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルトキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ

積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ揭示スル方法ニ從フ可シ
又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルトキハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルトキハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キテ検査ヲナサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノトキハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルトキ検査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及検査ノ方法ヲ反復施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリ

ト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルトキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコトヲ得ヘシ其場合ニ方リテ
地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方
檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナク
シテ往クヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人
又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長
船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム
トキハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルヲアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ
但シ罰金ハ科セサルヘシ
此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○海港檢疫官心得

明治十八年九月二十二日
内務省訓示檢甲第五三號

明治十五年六月第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則實施候節ハ別冊海港檢疫官心得
ニ據リ檢疫セシメ候様致スヘシ此旨及訓示候也
海港檢疫官心得

第一 凡ソ入港ノ船舶ハ先ツ其何レヨリ來ルヤヲ尋問シ其虎列刺病流行地ヲ發シ若クハ其地ヲ經由シ
又ハ其地ヲ發シ他港ヲ經テ來ル船舶ナルトキハ虎列刺病患者該死者若クハ其疑アル患者アリヤ又ハ
會テ該患者若クハ該死者アリシヤヲ検査スヘシ検査ノ上以上ノ者之レナク且第六項ニ該當セサルモ
ノト信認スルトキハ直ニ進航上陸及積荷ノ陸揚ヲ許可スヘシ

前項検査ノ際特ニ下等室水夫室火夫室小使室厠房庖厨其他不潔ノ部分ニ注意スヘシ
但其船舶ニ乗組醫員アルトキハ其醫員ニ就キテ之ヲ尋問スヘシ

第二 消毒ヲ要スヘキ船客ニシテ既ニ消毒法ヲ完了シタルトキハ陸地又ハ他ノ船舶ニ乗シ直ニ出發セ
シムルモ妨ケナシ

第三 入港ノ船舶流行地ヨリ來タルモ已ニ他ノ港ニ於テ検査ヲ受ケ進航上陸若クハ陸揚許可ノ證ヲ所
持シ其後該患者死者ナク且第六項ニ該當セサルモノハ直ニ進航上陸若クハ陸揚ヲ許可スヘシ

第四 船舶中會テ該患者死者アリシカ若クハ該患者死者又ハ其疑アル患者死者アルトキハ應當ノ處置
ヲ爲シ乗客船室等ニハ左ノ如ク消毒法ヲ行フヘシ

- 一 該死者若クハ該患者ノ身体ニ直接シタル衣類手巾臥具等ノ汚穢物ハ燒棄若クハ濃厚石炭酸水
(結晶石炭酸四分ナホ
百分ニ溶解シタル者)ニ浸シ又ハ熱氣煮沸等適當ノ消毒法ヲ行フヘシ
- 二 該死者若クハ該患者(其疑アル患
者モ含ム)ノ起臥シタル船室及ヒ其使用シタル厠房ハ濃厚石炭酸水ヲ以テ
充分ニ洗滌シ且亞硫酸瓦斯ノ蒸蒸法ヲ行フヘシ
- 三 該死者若クハ該患者ノ起臥シタル近傍ニ在リシ物品ニシテ病毒汚染ノ疑アルモノハ嚴ニ他ノ物
品ト區別シ置キ熱氣煮沸消毒法若クハ其他適當ノ消毒法ヲ行フヘシ
- 四 船客並ニ乗組人員ハ陸地ニ移シテ入浴セシメ在船中着用シタル衣類及ヒ其他消毒ヲ要スヘシト

認ムル携帶品(金銀器類等重價ノモノニシテ消毒ヲ要スル)ハ熱氣消毒法煮沸法亞硫酸蒸氣法又ハ稀石薄炭酸水(結晶石炭酸二分ヲ水百)ニ洗滌スル等適當ノ消毒法ヲ行フヘシ

五 上中等船客ニ虎列刺患者若クハ死者アルトキハ其病者ノ占メタル船室ニ前各款ノ方法ヲ行ヒ嚴ニ乗組人員トノ交通ヲ絶チ且下等船客ノ動搖ヲ制止スヘシ

六 該死者若クハ該患者ニ接近シタル人員ハ他ノ乗込人ト區別シテ消毒法ヲ行フヘシ但此一群ハ船中上陸及ヒ消毒ノ際トモ總テ他ノ人員ト分離格別ニ取扱フヘシ

七 船室等不潔雜沓ノ場所及ヒ船舶中病毒汚染ノ疑アリト認ムル部分ハ稀薄石炭酸水ヲ以テ叮嚀ニ洗滌シ尙下等船室ノ如キハ海水ヲ以テ再ヒ之ヲ洗ヒ又ハ亞硫酸瓦斯ヲ蒸シ充分ニ窓戸ヲ開キテ大氣ヲ流通セシメ厠房ノ如キ大氣ノ流通セサル場所ハ更ニ亞硫酸ノ蒸氣法ヲ兼テ行フヘシ以上ノ消毒法充分ニ完了シタリト認ムルノ後陸ニ移シタル乗込人ヲ船中ニ還歸セシムヘシ

第五 該死者若クハ該患者ノ周圍又ハ床下ニアリタル積荷若クハ病毒汚染ノ疑アリト認ムル積荷ニハ左ノ處置ヲ爲シ陸揚ノ手續ヲ爲スヘシ

一 密閉固封シテ病毒ノ浸潤スヘキ恐ナキ荷造リノ積荷ハ亞硫酸瓦斯ヲ蒸シ又ハ石炭酸蒸氣ヲ用ヒ或ハ石炭酸水ヲ散布スル等其物質ニ依リ區別シ之ヲ損セサル様適宜消毒スヘシ

第六 該死者若クハ該患者ナキモ左ニ掲クルモノハ四十八時間以内(消毒ニ必要ナル時間内)適宜碇泊セシメ消毒法ヲ行フヘシ

一 流行地ヲ發シ若クハ流行地ヲ經テ五日以内ニ着港シタル船舶ニハ第四項第四第七ヲ適宜應用ス

ヘシ

二 流行地ヲ發シ若クハ流行地ヲ經テ三週間以内ニ入港シ其航海中數名ノ下痢病者又ハ虎列刺病ニ疑ハシキ患者アリ若クハ虎列刺病患者死亡アリシ船舶ニシテ其消毒法不充分ト認メ若クハ原因ノ明カナラサル死屍ヲ搭載シタルモノアルトキハ第四項第五項ヲ適宜應用スヘシ

三 同上三週間以内ニ入港シ古着襪履其他傳播ノ虞アルモノヲ搭載シ來ルトキハ第五項ヲ適宜應用スヘシ

第七 消毒ヲ必要トスル場合ニ於テハ船中ニ貯フル用水ハ悉ク棄却シテ陸上ノ良水ヲ以テ充分ニ其貯器ヲ洗淨シ新鮮ノ水ト交換セシムヘシ

第八 前各項ニ據リテ爲シタル検査ノ始末掃除及消毒ニ關スル處置ハ總テ筆記シ置クヘシ

○夜間検査信號ノ件

明治二十一年九月五日 内務省告示第十一號

- 夜間検査信號左ノ通相定ム但晝間検査信號ハ萬國船舶信號ニ依ル
- 夜間検査信號
- 一 検査船前橋(船首碇泊燈)ノ位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ高サニ於ルニ於テ赤色球燈二箇各三呎ヲ距テ縦ニ連掲シ検査船ノ信號トス
 - 一 船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス
 - 一 検査船碇泊ノ時ハ船首船尾ニ各一箇ノ碇泊燈ヲ掲ク

○海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件 明治二十四年六月二十二日、勅令第六十五號

朕海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件

第一條 虎列刺病流行地方ニアラサルモ該病傳播ノ虞アリト認メ内務大臣ニ於テ特ニ指定シタル外國諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテ檢疫官ヲシテ該病患者又ハ該病死者ノ有無ヲ尋問セシム

第二條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ該病人ノ望アルトキハ其望ニ應ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬ス可シ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第三條 第一條ノ尋問ヲ拒ミ又ハ第二條ニ違背シ其他本令ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ據テ處分セラル可シ

第四條 本令施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務大臣之ヲ指定ス可シ

○市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準 明治二十八年四月三十日 内務省訓令第四號

道 廳 府 縣

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準左ノ通り定ム

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準

一 避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病毒ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハ力メテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ

一 避病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

一 重症患者室

若干棟

一 輕症患者室

若干棟

一 快復期患者室

一棟

以上ノ建物ニハ各別ニ厠ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ

一 醫員其他事務員詰所調劑所看護人室及炊場等

一棟

但浴室厠ヲ備フヘシ

一 消毒所

一箇所

但洗濯所ノ附屬ヲ要ス

一 屍室

一箇所

一 汚物置場及燒却所

一箇所

海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件 市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準

一物置

一箇所

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ同一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得

一病室ノ廣サハ患者一人ニ付凡一坪半ノ割合ヲ以テ造ルヘシ

一病室ハ床側壁トモ板張ト爲シ總テ洗滌消毒ニ便スヘシ

一屍室ハ床ヲ漆喰敷キ又ハ板張ト爲スヘシ

一各病室ノ床下ハ可成漆喰敷キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設ケテ之ニ入ルノ施設ヲ爲スヘシ

一避病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師、調劑掛、看護人、事務員ヲ置クヘシ

一 醫師

一人

一 醫員

患者十五名乃至二十名ニ付一人

一 調劑掛

二人以上

一 看護人

患者五名ニ付一人

一 事務員

若干

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ醫師、調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得

○種痘規則

明治十八年十一月九日
太政官布告第三十四號

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年内務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケン者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ
但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ
醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事「縣令」ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度「內務卿」ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事「縣令」ニ於テ便宜取設ケ「內務卿」ニ届出ヘシ

○種痘施術心得 明治十八年三月二十四日 內務省達甲第九號

明治十三年九月當省乙第三拾六號達傳染病豫防心得書附録トシテ種痘施術心得書左ノ通追加候條此旨相達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
 - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
 - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
 - 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊^{三稜筋}ニ於テ各々三針乃至五針^{受痘者ノ年齡ニ依リ}トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痴皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發量非常ニ大ナル者 疱縁又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正泡モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 泡ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者^{第十四條ヲ參照スヘシ}

五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日^{二十四時間ヲ以テ一日ト算ス下皆同シ}ヲ以テ佳トスト雖時候ノ寒暖及各人ノ性質ニ

隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其合包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否

二 痘疱常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否

三 紅暈ハ常形ナルヤ否

四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否

五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

六 痂皮ハ黯褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)
第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩

慢ナル者ハ第四第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水疱ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水疱稍々増大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈腺腫起スルコト有リ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ

第十一日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス

爾後黯褐色又ハ黒色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其痘顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

種痘術心得

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疤ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖トモ腋下ニ疼痛ヲ覺ニ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)
 - 二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル
 - 三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
 - 四 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス
 - 五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル癢痕ハ深クノ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ
- 第五 種痘ノ注意
- 第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ
- 第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦ス然レトモ受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト間々之アリ
- 第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○賣藥規則

明治十年一月二十日 太政官布告第七號

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

賣藥規則

第一章

- 第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ(十年第八十九號 布告ヲ以テ改正)
- 第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服用量効能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十一年第七號布告ヲ以テ其管轄廳ノ下ヲ經由シテ內務省ノ八字ヲ副ル)但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ(十五年第五十二號 布告ヲ以テ但書追加)
- 第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ(十一年第七號布告ヲ以テ內務省ヲ管轄廳ニ改メ發藥ノ下ニ劇藥ノ二字ヲ加フ)
- 第四條 「第八條ニ記シタル期限中」藥味分量用法服用量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

十九年勅令第
七十二號ヲ以
テ營業免許期
限ヲ廢ス

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持

ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十年第八十九
號布告ヲ以テ
改正十一年第七號布告ヲ以テ鑑札ヲ受クヘシ
改正十一年第七號布告ヲ以テ鑑札ヲ受クヘシ
ケ管轄廳以下十三字ヲ刪クノ一字ヲ加フ)

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキ
ハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 「營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過
キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ」

第九條 「第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ
一期ノ初月トナスヘシ」

第十條 「免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥
ヲ粗惡ニスル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ(十一年第七號布告ヲ
以テ有害品ヲ有害ト改ム)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之
ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フ
ヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者「免許期限中」其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ
鑑札名前書換ヲ請フヘシ(十年第八十九號
布告ヲ以テ改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑
札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ(十四年第六號布告ヲ以テ賣藥營業者ノ下及ヒ請賣者
ノ五字及ヒ賣藥請賣鑑札料賣藥行商鑑札料ノ二項刪除)

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ヶ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ(十五年第五十
號布告ヲ以
テ但書
追加)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料
ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ(十一年第四號布告ヲ
以テ税金納期改正)

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前
ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ(十一年第七號布告
ヲ以テ有害品
ト改)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者「又ハ期限過タル
鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者」ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ「又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者」及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ

請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ
第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第十六號布告ヲ以テ營業スル者)
(下ヘ又ハ營業以下三十八字ヲ加フ)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○藥品營業並藥品取扱規則 明治二十二年三月十五日 法律第十號

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試験ヲ受ケ年齢滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明證ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非ザレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅句語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科及高等中學校醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(廿五年六月法律第六號ヲ以テ及高等以下十二字ヲ加フ)

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○藥品巡視規則 明治二十二年三月二十七日 內務省令第四號

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
藥品巡視規則

第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

三 調劑錄

第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ

第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セス其時間ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス

第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ検査スルコトアルヘシ

第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

○衛生試験所ノ保證又ハ試験濟ナル文字ヲ記入スルコトニ關スル件

明治二十六年一月十九日
内務省令第一號

衛生試験所ノ印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外凡ソ物品ノ廣告揭示印刷物又ハ其容器包紙ニ衛生局又ハ衛生試験所ノ保證又ハ試験濟其他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス若シ衛生試験所ノ試験成績ヲ表示セントスル者ハ其成績書ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ増減變更スルコトヲ得ス
此省令ニ違背シタル者又ハ衛生試験所ノ検査ヲ詐稱シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス
本令ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

○衛生試験所再検査手續及其手数料

明治二十四年七月二十四日
内務省令第十號

衛生試験所ニ於テ検査シタル藥品其他ノ物品ニシテ初回ノ検査ニ對シ不服アル者ハ再検査ヲ請フコトヲ得再検査ノ手数料ハ初回検査手数料ノ三倍ヲ前納スヘシ

○醫療用藥品ノ検査證明ヲ業務トスル者藥品證明方

明治三十年九月二十一日
内務省令第二十六號

藥劑師化學者及會社等ニシテ醫療用藥品ノ検査證明ヲ業務トスル者ハ藥品ノ性狀、品質日本藥局方ニ記載アルモノハ該局方記載ナキモノハ其ノ據ル所ノ外國藥局方ノ所定ニ適合スルモノニアラサレハ試験濟印紙ヲ貼付シ又ハ適合ノ證明ヲ與フルコトヲ得違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ニ依リ處罰セラレタル者ニハ爾後検査證明ノ業務ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
停止禁止ノ命令ニ背キ検査證明ヲ爲シタル者ハ五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

衛生試験所ノ保證又ハ試験濟ナル文字ヲ記入スルコトニ關スル件 衛生試験所再検査手續及其
手数料 醫療用藥品ノ検査證明ヲ業務トスル者藥品證明方

○阿片法 明治三十年三月二十七日 法律第二十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル阿片法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

阿片法

- 第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第二條 阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ
前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試験ヲ施シ其ノ莫兒比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス
- 第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封緘ヲ施シ之ヲ賣下クルモノトス
政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス
- 第四條 第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及賠償金額竝ニ第三條ニ依リ賣下クヘキ阿片ノ價格ハ内務大臣之ヲ告示ス
賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量ヲ増加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ
- 第五條 阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限り卸賣人ヲ指定シテ賣下ケシム
- 第六條 醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量竝ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ卸賣人ヨリ購求スヘシ

- 醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ場合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ
 - 第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス
藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ
藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス
 - 第八條 處方箋竝ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ
 - 第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス
 - 第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第十三條 阿片製造人又ハ阿片卸賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得
- 附則
- 第十四條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
 - 第十五條 此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノトス

看做ス

第十六條 此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス

第十七條 明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買並ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○阿片法施行規則 明治三十年三月三十日 內務省令第四號

阿片法施行規則左ノ通定ム

阿片法施行規則

第一條 阿片製造人阿片ヲ納付セントスルトキハ納付書ニ阿片ノ量目ヲ記シ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ

內務省ニ申出ツヘシ但現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衛生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ付記シテ內務省ニ進達スヘシ

衛生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其成績ヲ內務省ニ報告スヘシ

但五匁未滿ノ納付品ハ試驗ヲ施スニ及ハス

第二條 政府ニ於テ賣下クル阿片ノ容器ハ一匁入十匁入五十匁入ノ三種トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ以テ封緘スルモノトス

第三條 阿片卸賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ(以下年度トアルモノ皆之ニ做フ)半年度毎ニ拂下ケテ受クヘキ阿片ノ數量ヲ豫算シ容器ノ種類員數ヲ記シ之ヲ地方廳ニ請求スヘシ但缺乏ノ節ハ臨時請求スルコトヲ得

第四條 阿片卸賣人ハ其ノ店頭ニ阿片卸賣所ト書シタル看板ヲ掲クヘシ

第五條 阿片製造人及阿片卸賣人族籍住所氏名ヲ變換スルカ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ十日以

内ニ地方廳ニ届出ツヘシ

阿片製造人及阿片卸賣人廢業シタルトキ又ハ死亡シ相續者其ノ業ヲ繼カサルトキハ既製ノ阿片及販賣殘餘ノ阿片ハ前項ノ期日内ニ納付シ又ハ買戻ヲ請求スヘシ但販賣殘餘ノ阿片ハ本條ノ期日内ニ同業者ニ讓渡スコトヲ得

第六條 第五條ノ届出納付及買戻ノ請求ハ死亡ノ場合ニ於テハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財產ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ管内ニ告示シ同時ニ內務省ニ報告スヘシ

第八條 藥劑師藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス阿片ノ受拂高並仕入元賣渡人ノ住所氏名年月日ヲ簿記シ十年間之ヲ保存スヘシ但藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依リ患者ニ與フルモノハ本條ノ簿記ヲ要セス

第九條 阿片卸賣人ハ毎年度ノ阿片受拂表正副二通ヲ製シ年度後一箇月以内ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十條 第四條第九條ニ違反シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 第五條第八條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十二條 此ノ規則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○阿片法第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量
量及其ノ賠償金額竝ニ政府ニ於テ賣下クヘキ阿片ノ價格

明治三十年三月二十日
内務省告示第三十號

阿片法第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及其ノ賠償金額竝ニ政府ニ於テ賣下クヘキ阿片ノ價格左ノ通定ム

但莫兒比涅含量九分以上ノ阿片ニ對スル賠償金額ハ明治三十一年三月三十一日迄ハ從前ノ買上價格ニ依ル

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量
阿片百分中莫兒比涅五分以上

阿片賠償金額

阿片百分中莫兒比涅五分以上六分未滿ノモノ	百匁ニ付	金一圓
同六分以上七分未滿ノモノ	同	金一圓五十錢
同七分以上八分未滿ノモノ	同	金二圓
同八分以上八分未滿ノモノ	同	金二圓五十錢
九分以上十二分未滿ハ一分ヲ増ス毎ニ金一圓十三分以上ハ一分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ		
五匁未滿ノ納付品ハ莫兒比涅含量ニ拘ハラズ百匁ニ付金一圓ノ割ヲ以テ賠償金ヲ交付ス		
阿片賣下價格	一匁入	金十錢
	十匁入	金一圓
	五十匁入	金五圓

○藥劑師試驗規則 明治二十二年三月二十七日
内務省令第三號

藥劑師試驗規則左ノ通之ヲ定ム

藥劑師試驗規則

第一條 藥劑師タラントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 藥劑師試驗ハ毎年二回舉行シ其舉行ノ地及ヒ期日ハ六箇月前之ヲ告示スヘシ (二十七年七月省令第六號ヲ以テ改正)

第三條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

學說

實地

第一 物理學

第二 化學

第一 分析術

第二 藥品鑑定

第三 植物學

第四 生藥學

第三 藥物製煉

第四 調劑術

第五 製藥化學

第四條 試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ試驗期日三箇月前ニ内務省宛ニテ地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ試驗期日一箇月前ニ之ヲ取纏メ内務省ニ進達スヘシ

第五條 (二十七年七月省令第六號ヲ以テ削除)

第六條 藥劑師試驗ヲ出願スル者ハ其際試驗手数料金五圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ返付セ

ス (二十六年省令第五號ヲ以テ改正)

第七條 受験上ニ都合ノ所爲アル者ハ試験委員長ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ (二十七年七月省令第六號ヲ以テ改正)

第八條 (二十六年四月省令第五號ヲ以テ削除)

第九條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

阿片法第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及其ノ賠償金額竝ニ政府ニ於テ賣下クヘキ阿片ノ價格 藥劑師試驗規則 中卷 五四七

○血清及痘苗代價納付ニ關スル件 明治二十九年六月二十五日 勅令第二百五十九號
朕血清及痘苗代價納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ納ムヘキ血清及痘苗代價ハ其ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得
本令ハ明治二十九年七月一日ヨリ施行ス

○實布埜利亞血清賣下規則 明治二十九年六月三十日 內務省令第七號

實布埜利亞血清賣下規則左ノ通之ヲ定ム

實布埜利亞血清賣下規則

- 第一條 實布埜利亞血清ハ清血藥院ニ於テ之ヲ製造シ賣下クルモノトス
- 第二條 醫師藥劑師又ハ藥種商ニ於テ血清ヲ要スルトキハ直ニ血清藥院ニ賣下ヲ請求スヘシ
若シ製造上ノ都合ニ依リ直ニ送付スルコト能ハサル場合ニ於テハ血清藥院ヨリ豫メ其送付期日ヲ請
求者ニ通知スヘシ
- 第三條 血清藥院ニ於テ製造スル血清ハ第一號第二號及第三號ノ三種トシ其代價ハ第一號ヲ金六拾錢
第二號ヲ金壹圓第三號ヲ金壹圓五拾錢トシ運送賃ヲ要セス但藥劑師(現ニ藥品營業ヲ爲スモノ)藥種商ニハ定價ニ
割引ニテ賣下クルヲ以テ定價ヲ超ヘ販賣スルコトヲ得ス

第四條 (二十九年省令第十) 四號ヲ以テ削除

第五條 血清藥院ニ納付スル血清代價ハ總テ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第六條 血清請求壘數ニ對シ貼用ノ登記印紙ニ過不足アルトキハ印紙相當ノ壘數ヲ送付スルモノトス
但一壘ノ代價ニ滿タサル分ハ切捨トス

第七條 血清代價トシテ納付スヘキ登記印紙ハ賣下請求書ニ貼付シ請求人記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以
テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印ノ上差出スヘシ

附則

第八條 此ノ規則ハ明治二十九年七月十日ヨリ施行ス

○痘苗賣下規則 明治二十九年七月十一日 內務省令第八號

痘苗賣下規則左ノ通之ヲ定ム

痘苗賣下規則

第一條 種痘用ノ痘苗ハ東京及大阪痘苗製造所ニ於テ之ヲ製造シ賣下クルモノトス

第二條 各痘苗製造所痘苗賣下區域ハ左ノ如シ

東京府	神奈川縣	新潟縣	埼玉縣	群馬縣	千葉縣
茨城縣	栃木縣	愛知縣	静岡縣	山梨縣	岐阜縣
長野縣	宮城縣	福島縣	巖手縣	青森縣	山形縣

血清及痘苗代價納付ニ關スル件 實布埜利亞血清賣下規則

秋田縣	石川縣	富山縣	北海道廳
右東京痘苗製造所	大阪府	兵庫縣	長崎縣
京都府	滋賀縣	福井縣	鳥取縣
山口縣	和歌山縣	德島縣	香川縣
福岡縣	大分縣	佐賀縣	熊本縣
沖繩縣	臺灣島及澎湖列島		宮崎縣
右大阪痘苗製造所			奈良縣
			三重縣
			廣島縣
			高知縣
			鹿兒島縣

第三條 市町村又ハ醫師其他何人タリトモ痘苗ヲ要スルトキハ直チニ痘苗製造所ニ賣下ヲ請求スヘシ
若シ製造上ノ都合ニ依リ直チニ送付スルコト能ハサル場合ニ於テハ痘苗製造所ヨリ豫メ其送付期日
ヲ請求者ニ通知スヘシ

第四條 各痘苗製造所ニ於テ外國ヨリ痘苗ノ請求ヲ受ケタルトキハ内地ノ供給ヲ妨ケサル限り之ニ應
スルコトヲ得(三十年令第七號ヲ以テ追加)

第五條 痘苗製造所ニ於テ賣下クル痘苗代價ハ一具(五人分)金五錢トシ運送費ヲ要セス但外國ニ發送ス
ル痘苗代價ハ一具金三十錢トス(同上號ヲ以テ追加)

第六條 痘苗製造所ニ納付スル痘苗代價ハ總テ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第七條 痘苗請求具數ニ對シ貼用ノ登記印紙ニ過不足アルトキハ印紙相當ノ具數ヲ送付スルモノトス
但一具ノ代價ニ滿タサル分ハ切捨トス

第八條 痘苗代價トシテ納付スヘキ登記印紙ハ痘苗賣下請求書ニ貼付シ請求人記名ノ下ニ押捺スル印

ヲ以テ書面ト印紙ノ彩紋トニカケ消印ノ上差出スヘシ

附則

第九條 此ノ規則ハ明治二十九年七月二十五日ヨリ施行ス

○醫師免許規則 明治十六年十月二十三日
太政官布告第三十五號

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年ハ第四號布達同年ハ第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試験ヲ受ケ「内務卿」ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス
但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其效アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキ
ハ「内務卿」ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者
其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ「内務卿」ハ其證書ヲ審査シ試
験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事「縣令」ノ具狀ニヨリ「内務卿」ハ醫術開業試験ヲ經サル者ト雖ト

モ其履歴ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經「内務卿」ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上

ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 「内務卿」ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ調査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○醫術開業試驗規則

明治十六年十月二十三日
太政官布達第三十四號

今般第二十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通相定メ明治十七年一月

一日ヨリ施行ス

但明治十二年ニ内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫術開業試驗規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 「内務卿」ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六ヶ月前之ヲ「内務卿」ヨリ告示スヘシ

第三條 (二十二年省令第七號ヲ以テ削除)

第四條 (同上)

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

第一 物理學

第二 化學

第三 解剖學

第四 生理學

後期試験科目

第一 外科學
 第二 內科學
 第三 藥物學
 第四 眼科學
 第五 產科學
 第六 臨床實驗
 第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
 第一 齒科解剖及生理
 第二 齒科病理及治療
 第三 齒科用藥品
 第四 齒科用器械
 第五 實地試驗
 第八條 前期試驗ハ一ケ年半年以上後期試驗ハ更ニ一ケ年半年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス
 但齒科醫術開業試驗ハ二ケ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス(十七年第二號布達)
 第九條 前期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試驗及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ內務省ニ進達スルモノトス(二十六年六月內務省令第九號)
 但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス(二十六年六月內務省令第九號)

第十條 地方廳ニ於テ試驗出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アリト認ムル者アルトキハ之ヲ內務省ニ具狀スヘシ內務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試驗ヲ許サハルコトアルヘシ
 第十一條 試驗問題ハ試驗委員長試驗委員協議ノ上之ヲ撰定シ試驗場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシム(二十二年省令第八號)
 但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ
 第十二條 (二十二年省令第八號)
 第十三條 試驗ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試驗ヲ請フコトヲ得ス
 第十四條 醫術開業試驗ヲ出願スル者ハ其際左ノ手数料ヲ納ムヘシ
 但納付シタル手数料ハ返付セシム
 前期 金五圓
 後期 金八圓(三十年省令第八號)
 齒科 金八圓(二十六年內務省令第四號ヲ以テ削除)
 第十五條 (二十六年內務省令第四號ヲ以テ削除)

○變死體解剖ノ件 明治十年二月二十一日 太政官布告第二十二號
 變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事 檢事派出ナキ地 方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得

變死體解剖ノ件 病死體解剖ノ件 死體解剖ヲ高等中學校醫學部ニ於テモ開届タルノ件
 中卷 五五五

○病死體解剖ノ件

明治九年七月二十九日
内務省達

病死體解剖ノ儀ハ醫術進步ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付双方熟談ノ上ハ區戶長或ハ醫務取締ヘ届置患部ノ剖
觀不苦候條此旨相達候事

○死體解剖ヲ高等中學校醫學部ニ於テモ聞届クルノ件

明治二十一年九月二十四日
文部省告示第十號

從來死體解剖ノ儀帝國大學醫科大學ヘ願出ル者アルトキハ該學ニ於テ聞届來候處自今文部省直轄高等
中學校醫學部ニ於テモ同様可聞届ニ付右望ノ者ハ該醫學部ヘ願出ヘシ

○請フ者ナキ刑死者等解剖ノ儀

明治十八年七月二十一日
内務省達甲第二十五號

監獄則ニ揭クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若
クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事
但屍體剖觀ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ハシムヘシ

法規類抄中卷畢

會計
租稅
兵事
戶籍賞恤
學事
社寺
官有財產管理並土地處分
鐵道
東京市區改正
行政訴訟並訴願
雜部

訂正
增補

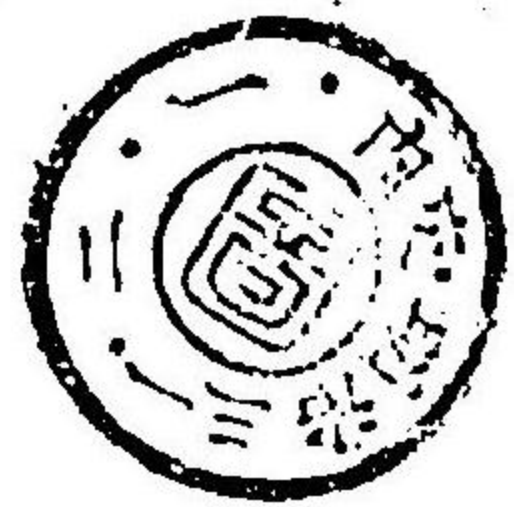
法規類抄

下卷

訂正 法規類抄下卷目次

會計

會計法	二十二年二月十一日 法律第四號	一
會計法施行規則	二十三年八月二日 法律第五十七號	七
歲入歳出豫算概定順序	二十二年四月三十日 勅令第六十號	九
豫定經費算出概則	二十二年三月二十七日 閣令第十二號	二八
政府ノ土地又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方	二十二年六月十日 閣令第十九號	二九
土木工事起業者保證金ノ件	二十三年九月一日 勅令第九十三號	三〇
府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ	二十四年三月二十七日 勅令第二十六號	三一
施行スヘキ工事ニ關聯スル政府工事ニ係ル隨意契約	二十六年五月十九日 勅令第五十一號	三一
ノ件		



物品會計規則	二十二年六月十一日 勅令第八十四號	三三
仕拂命令委任規程	二十二年七月二日 勅令第八十九號	三四
仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續	二十六年十二月七日 內務省訓令第二十二號	三五
內務省所管經費仕拂命令官ヨリ提出スヘキ支出計算書及證憑書類會計検査院ニ送付ノ件	二十六年十二月十九日 內務省訓令第二十七號	三七
出納官吏身元保證金ノ件	二十三年一月十八日 勅令第四號	三七
內務省所管出納官吏身元保證金納付及拂戻等ニ關スル取扱規則	二十六年十二月十一日 內務省訓令第二十三號	三九
金庫規則	二十二年十二月十一日 勅令第百二十六號	四二
預金規則	十八年五月三十日 大政官布告第十三號	四三
預金取扱規程	二十六年九月二十日 大藏省令第十九號	四四
預金ニ制限ヲ置キ整理公債ニ交換ノ件	二十三年八月二十七日 法律第七十五號	四七
保管金規則	二十三年一月四日 法律第一號	四八

保管物取扱規程	二十六年九月二十日 大藏省令第二十號	四九
政府ニテ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スル件	二十三年一月四日 勅令第二號	五二
供託規則	二十三年七月二十五日 勅令第百四十五號	五三
供託物取扱規程	二十六年九月二十日 大藏省令第二十一號	五四
供託物取扱順序	二十三年十二月二十八日 大藏省訓令第百五十五號	五七
中央備荒儲蓄金會計規則	二十三年五月十二日 勅令第七十七號	五九
中央備荒儲蓄金預金局預金等特別會計ノ件	二十三年三月十七日 法律第二十一號	六一
會計検査院法	二十二年五月九日 法律第十五號	六二

租稅		
地租條例	十七年三月十五日 太政官布告第七號	六七
地租條例施行細則	二十二年十二月二十九日 大藏省令第十九號	七〇
地租條例及地租條例施行細則取扱方	二十二年十二月二十九日 大藏省訓令第七十六號	七三

地租徵收期限	二十四年三月十四日 法律第二號	七三
田畑地價特別修正	二十二年八月二十六日 法律第二十二號	七四
登録稅法	二十九年三月二十七日 法律第二十七號	七五
同法施行細則	二十九年三月三十日 大藏省令第六號	八二
營業稅法	二十九年三月二十七日 法律第三十三號	八二
同法施行規則	二十九年七月二十日 勅令第二百六十九號	九二
所得稅法	二十年三月十九日 勅令第五號	九七
所得稅法施行細則	二十年五月五日 大藏省令第八號	一〇一
所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方	二十一年七月九日 大藏省訓令第三十五號	一〇三
市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件	二十二年四月二十二日 法律第十四號	一〇四
酒造稅法	二十九年三月二十七日 法律第二十八號	一〇五
同法施行規則	二十九年八月十七日 勅令第二百八十七號	一一〇
自家用酒稅法	二十九年三月二十七日 法律第二十九號	一一七

同法施行規則	二十九年八月十七日 勅令第二百八十九號	一一九
混成酒稅法	二十九年三月二十七日 法律第三十號	一二〇
同法施行規則	二十九年八月十七日 勅令第二百八十八號	一二二
酒精營業稅法	二十六年四月二十日 法律第十七號	一二三
醬油稅則	二十一年六月十六日 勅令第四十七號	一二五
證券印稅規則	十七年五月一日 太政官布告第十一號	一二九
賣藥印紙稅規則	十五年十月二十七日 太政官布告第五十一號	一三六
國稅徵收法	三十年三月二十六日 法律第二十一號	一三八
國稅徵收法施行規則	三十年六月二十二日 勅令第二百二十一號	一四四
國稅徵收法施行細則	三十年六月二十六日 大藏省令第十號	一五〇
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件	三十年六月十五日 勅令第九十五號	一五三
北海道開墾地々租地方稅免除ノ件	二十二年六月二十八日 法律第十八號	一五四
沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國		

稅徵收ノ件	二十二年十二月二十八日 勅令第四百一十一號	一五四
間接國稅犯則者處分法	二十三年九月二十日 法律第八十六號	一五五
間接國稅犯則者處分法施行細則	二十三年十一月十日 大藏省令第三十一號	一五八
登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件	二十四年十二月十六日 勅令第四百四十五號	一六一
登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料又ハ代價ノ種類及納付方	三十年十月十一日 內務省令第二十八號	一六一
兵事		
徵兵令	二十二年一月二十一日 法律第一號	一六三
徵兵事務條例	二十九年三月三十日 勅令第四百十二號	一七〇
徵兵事務條例施行細則	二十九年四月二十三日 陸軍省令第十號	一八二
徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件	二十二年五月八日 勅令第六十四號	一九三

陸軍補充兵召集規則	二十八年十一月二十八日 陸軍省令第二十七號	一九三
陸軍六週間現役兵條例	二十八年十月四日 勅令第四百一十一號	一九六
同條例施行細則	三十年四月五日 陸軍省令第九號	一九七
陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方	二十九年七月十三日 陸軍省令第十六號	二〇〇
徵發令	十五年八月十二日 太政官布告第四十三號	二〇一
徵發費用息納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方	十六年八月八日 太政官布告第三十一號	二〇九
徵發事務條例	十五年十二月十八日 太政官布告第二十六號	二〇九
戶籍賞恤		
戶籍法	四年四月四日 太政官布告第七十號	二二〇
戶籍法中心得方及改正	明治五年正月十三日 太政官布告第四號	二二九
出生死去出入及寄留者届出方改定	十九年九月二十八日 內務省令第十九號	二三一
寄留届寄留者復歸届取扱方	二十九年六月六日 內務省訓令第四號	二三三

戶籍取扱手續……………	十九年十月十六日	二三三
私生子ニ關スル件……………	六年一月十八日	二三六
内外人婚姻ニ關スル件……………	六年三月十四日	二三六
婚姻養子女離縁等戶籍ニ登記セサル内ハ無効トスル件……………	八年十二月九日	二三七
褒章條例……………	十四年十二月七日	二三七
褒章條例取扱手續……………	二十七年一月六日	二三九
褒章ト金銀木盃金圓賜リ方……………	十六年一月四日	二四〇
金銀木盃金圓賜與手續……………	十六年三月二十六日	二四〇
木杯製式並賜金比較表……………	十六年十月十六日	二四二
勳章記章ニ類似ノ標章佩用禁止ノ件……………	二十八年八月十六日	二四六
同上禁止方心得……………	勳令第百十八號	二四六
恤救規則……………	二十八年八月二十四日	二四六
窮民恤救申請調査箇條……………	七年十二月八日	二四七
棄兒養育米給與方……………	八年七月三日	二四七
	內務省達乙第八十五號	二四七
	四年六月二十日	二五〇
	太政官布告第三百號	二五〇

棄兒養育米及生年月檢定方……………	六年四月二十五日	二五〇
三子養育料ノ件……………	六年三月三日	二五一
恤救米棄兒養育米等支給方……………	八年四月二十九日	二五一
救恤米及棄兒養育米石代相場立方……………	大藏省達乙第六十三號	二五一
行旅死亡人及行旅病人携帶兒救助ノ件……………	九年三月二十四日	二五二
迷兒取扱ノ件……………	大藏省達乙第三十二號	二五二
	十九年五月十一日	二五二
	內務省訓令第二五一號	二五二
	二十二年二月二十一日	二五二
	內務省訓令第五號	二五二
學事		
地方學事通則……………	二十三年十月二日	二五三
諸學校通則……………	法律第八十九號	二五三
小學校令……………	十九年四月九日	二五五
小學校令ノ施行ニ關スル件……………	勳令第十六號	二五五
市町村立小學校一時存續ノ件……………	二十三年十月六日	二五六
私立小學校代用規則……………	勳令第二百十五號	二五六
	二十四年一月二十三日	二七三
	勳令第五號	二七三
	二十四年三月三日	二七三
	勳令第十九號	二七三
	二十四年三月十日	二七五
	文部省令第一號	二七五

小學校設備準則	二十四年十一月十七日 文部省令第十五號	二七八
小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則	二十四年十一月十七日 文部省令第二十號	二七九
市町村立小學校教員俸給ニ關スル件	二十九年十二月二十九日 勅令第三號	二八一
市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法	二十九年三月二十三日 法律第十四號	二八三
同法施行規則	二十九年五月十六日 文部省令第七號	二八四
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法	二十三年十月二日 法律第九十號	二八五
同法第十四條納金收入ニ關スル件	二十四年十月九日 文部省訓令第三號	二八九
府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法	二十三年十月二日 法律第九十一號	二八九
公立學校職員退隱料等ニ關スル件	二十九年三月二十三日 法律第十三號	二九四
同法律ニ於ケル學校職員ノ資格及同法律ノ施行ニ關スル件	二十九年三月三十日 勅令第九號	二九五
府縣小學校教員恩給基金管理規則	二十四年十月九日 文部省令第七號	二九六
尋常中學校高等女學校技藝學校設置ノ件	二十六年五月十七日 勅令第三十三號	二九六

市町村立小學校授業料ニ關スル件	三十年十一月六日 勅令第四百七號	二九七
市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件	二十六年五月十七日 勅令第三十四號	二九七

社寺

神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委任スル件	十七年八月十一日 太政官布達第十九號	二九八
官國幣社ノ神官ヲ廢シ神職ヲ置クノ件	二十年三月十七日 開令第四號	二九九
神佛各教宗派内ノ者願書差出方	二十二年五月二十七日 内務省訓令第二十二號	三〇〇
古社寺保存法	三十年六月五日 法律第四十九號	三〇〇
古社寺保存金出願規則	二十八年七月十二日 内務省令第七號	三〇三
府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件	二十七年二月二十七日 勅令第二十二號	三〇四
府社縣社以下神社神職登用規則	二十八年八月七日 内務省令第十號	三〇六
同規則第一條第四條ニ關スル件	二十八年九月七日 内務省訓令第六五六號	三〇七

官國幣社神職試驗規則……………二十八日九月九日
内務省訓令第十五號
三〇八
社司社掌試驗規則……………二十八日九月二十日
内務省訓令第十六號
三一一

官有財産管理並土地處分

官有財産管理規則……………二十三年十一月二十四日
勅令第二百七十五號
三一二

官有地取扱規則……………二十三年十一月二十四日
勅令第二百七十六號
三二五

官有土地水面ニ關スル委任ノ件……………二十四年七月二十四日
内務省訓令第十四號
三二七

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ件……………二十四年五月二十二日
内務省訓令第四六二號
三一九

直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川ノ堤塘及國道使
用ニ關スル件……………二十五年五月十日
内務省訓令第三五四號
三二〇

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキ取扱方……………二十四年五月二十二日
内務省訓令第四六三號
三二〇

官有地特別處分規則……………二十三年七月二十一日
勅令第三百三十五號
三二一

官有地賣賃評價委員設定ノ件……………二十三年十月二十日
内務省訓令第三十七號
三二二

官有森林原野及產物特別處分規則……………二十三年四月三日
勅令第六十九號
三二二

同規則條第一第二項ニ關スル件……………二十三年七月二十日
農商務省訓令第三十四號
三二四

社寺上地官林委託規則……………二十四年四月八日
農商務省令第五號
三二七

官有土地森林原野收入金徵收規程……………二十四年三月二十日
農商務省訓令第十一號
三三〇

官ニ屬スル公有水面埋立出願ニ係ル件……………二十三年十月二十日
内務省訓令第三十六號
三三二

同上訓令第十三條ニ依レル稟議方……………三十年十月二十六日
内務省訓令第二十三號
三三四

同上訓令ニ依リ府縣知事ノ稟伺ヲ受領シタルトキ取
扱方……………三十年十月二十六日
内務省訓令第九七五號
三三五

地所名稱區別……………七年十一月七日
太政官布告第百二十號
三三五

北海道國有未開地處分法……………三十年三月二十七日
法律第二十六號
三三七

同法第三條ニ依レル貸付地面積制限ノ件……………三十年四月十五日
勅令第九十八號
三四一

北海道移住民規則……………三十年四月十日
拓殖務省令第三號
三四二

北海道移住民ニ關スル心得……………三十年四月二十日
拓殖務省訓令十六號
三四四

土地收用法……………二十二年七月三十日
法律第十九號
三四四

工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件……………三十年二月十七日
勅令第十五號
三五二

土地收用法ニ依リ收用スヘキ土地ノ細目ヲ示サ、ル
 モノ公告方……………二十二一年十二月九日
 内務省訓令第四十二號
 三五二

土地收用協議會規則……………二十三年七月二十五日
 法律第五十四號
 三五二

官有ノ建物及其附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ
 賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件……………二十六年十二月五日
 勅令第二百二十八號
 三五四

道路橋梁等通行錢徵收ノ件……………四年十二月十四日
 太政官布告第六百四十八號
 三五四

道路掃除法……………五年十月二十八日
 太政官布告第三百二十五號
 三五四

道路敷地貸渡不相成ノ件……………八年十二月十七日
 内務省達乙第六十五號
 三五六

國道道幅ノ件……………十八年一月六日
 太政官布達第一號
 三五六

道路築造標準……………十九年八月五日
 内務省訓令第十三號
 三五六

鎮守府ニ達スル國道ノ件……………二十年七月一日
 勅令第二十八號
 三六一

鐵道

私設鐵道條例……………二十年五月十七日
 勅令第十二號
 三六二

鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸

借スルノ件……………二十三年十一月二十六日
 勅令第二百七十七號
 三六八

軌道條例……………二十三年八月二十三日
 法律第七十一號
 三六八

軌道條例ニ關スル取扱方ノ件……………二十三年十月八日
 内務省訓令第六六二號
 三六九

東京市區改正

東京市區改正條例……………二十一年八月十六日
 勅令第六十二號
 三七六

東京市區改正土地建物處分規則……………二十二年一月二十八日
 勅令第五號
 三七九

東京府區内清酒輸入規則……………二十一年十二月十九日
 勅令第八十八號
 三八〇

東京市區改正條例其他二規則ニ關スル件……………二十三年八月十四日
 勅令第七十號
 三八一

東京市區改正委員會組織權限……………二十九年七月三十日
 勅令第二百七十九號
 三八二

行政訴訟並訴願

行政裁判法……………二十三年六月二十八日
 法律第四十八號
 三八三

行政裁判所處務規程……………二十三年八月二十九日
 勅令第九十二號
 三九一

行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件	二十三年六月二十八日 勅令第百一十一號	三九二
行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件	二十三年十月九日 法律第百六號	三九三
訴願法	二十三年十月九日 法律第百五號	三九四

雜部

公文式	十九年二月二十四日 勅令第一號	三九七
官報到達日數	十六年五月二十六日 太政官布達第十四號	三九九
地方官廳ノ發スル命令ノ公布式	二十六年十月三十日 勅令第百九十九號	四〇〇
命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件	二十三年九月十八日 法律第八十四號	四〇二
省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件	二十三年九月十八日 勅令第百八號	四〇二
建白書上呈方	八年十一月二十五日 太政官布告第百七十八號	四〇三

訂正 法規類抄下卷目次畢
增補

法規類抄下卷

會計

○會計法 明治二十二年二月十一日
法律第四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム



第一章 總則	第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル	
	第二條 會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ	
	第三條 租稅及其他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ	
	第四條 各官廳ニ於テハ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス	
第二章 豫算	第五條 歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ	
	第六條 歲入歲出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ	
	總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ	
	第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ	
	第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歲入歲出現計書	

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租税及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租税ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各、之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨ

リ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス

第十章 雜則

第二十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各、其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計法補則 明治二十三年八月二日 法律第五十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計法補則

第一條 明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シ

タル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

一 文武官ノ俸給及文官退官賜金

會計法補則

- 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
 - 三 賞勳年金及褒賞費
 - 四 外國條約及約束ニ依レル支出
 - 五 各廳ノ廳費及經常修繕費
- 第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス
- 一 帝國議會經費
 - 二 裁判所並會計検査院經費
 - 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
 - 四 徴兵費
 - 五 徴稅費 證券印紙切手額製造買戻押印費鑑札製造所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徴稅費滯納處分費差押物件買上代
 - 六 囚徒費
 - 七 遞信事業及航路標識費
 - 八 内外國難破船費
 - 九 沖繩縣及小笠原島地方費
 - 十 備荒儲蓄
 - 十一 北海道拂下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス

- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當
 - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費
 - 十 預金利子
 - 十一 既約アル地所家屋借料
- 第四條 明治二十三年度以前ノ歲出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

○會計規則 明治二十二年四月三十日
勅令第六十號
朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廿六年勅令
第百十二號
以テ加除改正
ヲ行フ
日七一月一
ヲ行フ

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

- 第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル
- 第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
- 第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル
- 第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度
- 第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度
- 第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
- 第五 前各項ニ掲クル類別ニ入サラル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ
- 第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス(廿六年勅令第百十
二月ト)

第二章 豫算

第一款 總豫算

- 第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ總

豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

- 第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ
- 第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ
- 第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ
- 第二款 豫定經費要求書
- 第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)
- 第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ
- 第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ
- 第三款 仕拂豫算
- 第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)
- 仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ
- 第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(上)
- 第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ(上)
- 第四款 歳入歳出現計書
- 第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製

スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ(廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承

認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ(廿六年勅令第百十二) (號ヲ以テ本條中創設)

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收済ノ旨ヲ收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歳入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納

人ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ(全勅令ヲ以テ改正)

會計規則

第二十八條 (全勅令ヲ以テ削除)

第二十九條 (上全)

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ各
省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作リ
之ニ必要ナル参照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ
金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該
經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載ス
ヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ
添ユルコトヲ得(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中創除)

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額、
支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人
ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ

仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ(廿六年勅令第百十七號ヲ以テ改正)

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂命令ヲ
金庫ニ送付スヘシ(上全)

第三十七條 (全上勅令ヲ以テ削除)

第三十八條 (上全)

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費
外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ
一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限リハ成ルヘク分割シテ仕拂
命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕
拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任
官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ
發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコ
トヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ

超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受

ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間內ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ(廿六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相

當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ(廿六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年內ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ依リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタ

ル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運

輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(廿六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第五十條 (全上勅令ヲ以テ削除)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書(廿六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所

管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歳入ヲ測定スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入測定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ年

度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ翌月十五日マテニ

其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大

臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得(全勅令ヲ以テ追加)

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ
第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算
- 第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算
- 第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理
スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 收入計算
- 第二 支出計算
- 第三 最近五箇年度間資金ノ増減
- 第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年
度經過後二箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)
本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ
第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額及第四十四條ニ據リ翌年度六月三十日マテニ
仕拂命令ヲ發スヘキ額(上全)

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サント
スルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシム
ル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ(廿六年
勅令第
百十二號ヲ
以テ改正)

第六十一條 (全上勅令
ニテ削除)
第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費
所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入
第六十三條 仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ
通知スヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ(上全)

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス(上全)

第六十六條 (全上勅令ヲ以テ削除)

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ(全勅令ヲ以テ改正)

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス(全上勅令ヲ以テ改正)

第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユルヘカラス(全上)

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得(全勅令ヲ以テ追加)

工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ(全勅令ヲ以テ改正)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス(廿六年勅令ヲ改正)

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違ヒサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ
第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ改)

但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得(全勅令ヲ以テ改正)

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省畧スルコトヲ得(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏(全勅令ヲ以テ改正)

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス(全勅令ヲ以テ追加)

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十

六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク(全勅令ヲ以テ改正)

第八十七條 (全勅令ヲ以テ削除)

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ本藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 (廿六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本藏大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本藏大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢
定書ニ通テ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付
シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別
ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 收入官吏ハ毎年度經過後五箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務
ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ歳入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スヘシ
(廿六年勅令第百十)
(二號ヲ以テ改正)

第九十六條 歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ
其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(上全)

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出
納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會
計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ
其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ
毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其
下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航
海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十八條ノ二 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ各
別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏ヲシテ

報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ(廿六年勅令第百十)
(二號ヲ以テ追加)

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタ
ル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタ
ル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判
決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ
之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若
クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ
通知スヘシ(廿六年勅令第百十二)
(號ヲ以テ本條中削除)

第一百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第一百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ
身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費

ヲ以テ登記ヲ受クヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

第二百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ償辨ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ(廿六年勅令第百十二
號ヲ以テ本項中削除)

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第二百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其證人ヨリ徴收スヘシ

第二百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第二百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第二百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第一百一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(全勅令ヲ
以テ追加)

第九章 帳簿

第一百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第一百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第一百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

會計規則

第一百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記ス
ヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

第一百十七條 (全上
削除)

第一百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現
金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル
主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第一百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程
様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

第一百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト抵觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○歳入歳出豫算概定順序 明治二十二年三月二十七日
閣令第十二號

第一條 歳入ノ事務管理廳ハ各年度歳入概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送
付スヘシ(廿六年閣令第二
號ヲ以テ改正)

第二條 歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由
ヲ説明スヘシ

第三條 各省大臣ハ各年度歳出概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
(廿六年閣令第二
號ヲ以テ改正)

第四條 歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ
比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調
製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ(廿六年閣令第二
號ヲ以テ改正)

第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減
ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度七月十五日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ(廿六年閣令第二
號ヲ以テ改正)

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度
ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(上同)

第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條 明治二十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延メコトヲ得

○豫定經費算出概則

明治二十二年六月十日
閣令第十九號

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

- 第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ
- 第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各々其據ル所ヲ示スヘシ
- 第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ
- 第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時傭入及解傭ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ
- 第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ
- 第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノヲ除ク)ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ定期ニ據リ之ヲ豫算スヘシ
- 第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ
- 第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ
- 第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

○政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方

明治二十三年九月一日
勅令第百九十三號

朕政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモノ尙ホ豫定價格ノ制限ニ違セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○土木工事起業者保證金ノ件

明治二十四年三月二十七日
勅令第二十六號

朕土木工事起業者保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木工事ヲ特許スルニ方リ當該官廳ハ其起業者ヲシテ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得但有價證券ヲ以テ代用セシムルモ妨ケナシ

○府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ
工事ニ關聯スル政府工事ニ係ル隨意契約ノ件

明治二十六年五月十九日
勅令第五十一號

朕府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府工事ニ係ル隨意

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方 土木工事起業者保證金ノ件 下卷 三一
府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府工事ニ係ル隨意契約ノ件

契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事ニシテ其分割施行ヲ爲スヲ不利トスル場合ニ於テ政府ハ其工事ノ受負又ハ之ニ要スル物品ノ供給ヲ隨意契約ヲ以テ府縣市町村又ハ組合工事ノ受負人又ハ物品供給者ニ命スルコトヲ得

○物品會計規則 明治二十二年六月十一日 勅令第八十四號

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

物品會計規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル
- 第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
- 第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
- 第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス
- 第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ
- 第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 (二十四年勅令第七十七號ヲ以テ削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ豫算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證書書類ヲ添ヘ之ヲ本廳大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其
ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調
製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタル
モノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ
添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハ
サル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書
ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ハ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ
規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○仕拂命令委任規程 明治二十二年七月二日
勅令第八十九號

朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條
ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

○仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續

明治二十六年十二月七日
內務省訓令第二十二號

內務省所管經費仕拂命令官

仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續左ノ通相定メ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

第一條 仕拂命令官仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ成ルヘク其交付ヲ爲サントスル日ノ前
日ニ其案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ但臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二條 仕拂命令官集合仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタルトキハ本訓令附屬第一號書式ノ通知書ヲ各受取
人ニ交付シ受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨記入シ之ト引換ニ現金ヲ金庫ヨリ受取ラシムヘシ

第三條 仕拂命令官金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令又ハ集合仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル
トキハ通知書ヲ各受取人ニ送付シ現金領收ノ際受取人ヲシテ式ノ如ク領收ノ旨記入シ之ヲ金庫ニ差
出サシムヘシ但シ在外國受取人ヘノ送金及電信爲替ニ依リ送金スル場合ニハ本條ノ通知書ヲ送付ス

仕拂命令委任規程 仕拂命令集合仕拂命令發付等ニ關スル取扱手續

二十八年内務
省訓令第十三
號ヲ以テ第三
條第三條中改
正

ルニ及ハス

第四條 仕拂命令官仕拂命令ヲ債主ニ交付シ若クハ集合仕拂命令又ハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令集合仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタルトキハ各其領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ領收證書ハ金庫ヨリ會計検査院へ提出ノ爲メ仕拂命令官へ送付アルヘキ第二條第三條ノ現金交付濟通知書及第三條但書ノ場合ニ於テ受取人ヨリ徴シタル領收證書トトモニ會計規則第五十二條第三項ノ計算書ニ添付シ提出スヘシ(二十七年七月訓令第
十四號ヲ以テ改正)

第五條 仕拂命令官仕拂命令集合仕拂命令ヲ發行シタル後科目ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ本訓令附屬第二號書式ノ科目訂正書ヲ當該金庫ニ送付スヘシ

第六條 毎月ノ計算整理ノ爲メ仕拂命令又ハ集合仕拂命令ヲ受取人ニ交付シ又ハ金庫ニ送付スルハ毎月二十八日(二月十六日)限リトス但法規上仕拂期日ノ定マレルモノ及臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第七條 仕拂命令官ハ毎月二十八日(二月十六日)ニ於テ其月中ニ金庫へ送付シタル案内仕拂命令ニ對スル仕拂命令ニシテ事故アリテ同日迄ニ受取人ニ交付スルニ至ラザリシモノアルトキハ之ヲ調査シ即日其案内仕拂命令ノ返付ヲ金庫ニ請求スヘシ但其二十八日(二月十六日)以後ノ送付ニ係ルモノニシテ其月中ニ交付スルニ至ラザルモノアルトキハ末日ニ於テ本文ノ手續ヲナスヘシ

第八條 仕拂命令官金庫出納事務規程ニ據リ金庫ヨリ歳出金月計對照表歳出仕拂未濟繰越金支出月計對照表ニ證憑書類ヲ添へ送付ヲ受ケタルトキハ其仕拂命令受領濟額ハ仕拂命令發行額ニ其現金仕拂額ハ證憑書類ニ對照シ相違アルトキハ速ニ其事由ヲ付シテ之ヲ返付シ相違ナキトキハ甲號表ハ之ヲ留置キ乙號表ニ書面ノ金額調査候處相違無之ニ付證明シ證書何枚及返却候也」ト記入署名捺印シ證憑書類ト共ニ三日以内ニ之ヲ金庫ニ返付スヘシ

明治二十三年法律第十一號第十條ニ據リ國庫ニ於テ資金ヲ繰越シタル仕拂切符竝ニ同年大藏省訓令

第二十七號第二條第二項ニ據リ中央金庫及本支金庫ニ於テ引繼ヲ受ケタル雜部金ニ對シ金庫ニ於テ現金仕拂ヲ爲シタル分ニ係ル月計對照表ノ送付ヲ金庫ヨリ受ケタルトキハ前項ニ準シ取扱フヘシ前各項ニ據リ證明ヲ爲シタル後該證明ニ就キ誤謬ヲ發見シタルトキハ其理由ノ證明書ヲ作り之ヲ金庫ニ交付スヘシ

第九條 仕拂命令官ハ照檢ノ用ニ供セシムル爲メ其印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ
(書式略ス)

○内務省所管經費仕拂命令官ヨリ提出スヘキ支出計算書及證憑書類
會計検査院ニ送付ノ件 明治二十六年十二月十九日 内務省訓令第二十七號

警視廳 北海道廳 府縣
集治監 臨時橫濱築港局

明治二十七年一月以降會計規則第五十二條第三項ニ依リ内務省所管經費仕拂命令官ヨリ提出スヘキ支出計算書及證憑書類ハ各廳長官ニ於テ調査シ直チニ會計検査院ニ送付スヘシ

○出納官吏身元保證金ノ件 明治二十三年一月十八日 勅令第四號

内務省所管經費仕拂命令官ヨリ提出スヘキ支出計算書及證憑書類會計検査院ニ送付ノ件
出納官吏身元保證金ノ件

朕出納官吏身元保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三八

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ

但兵備品ノ出納ヲ取扱フ武官ハ本條ノ限ニアラス(廿四年六月勅令第五十一號ヲ以テ追加)

第一 現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏

ニ限リ明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利足ノモノヲ以テシ其價格ハ明治二十三年三月中旬東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中旬ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ヲ公賣スルトキ

其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 (廿六年勅令第二四號ヲ以テ削除)

○内務省所管出納官吏身元保證金納付及拂戻等ニ關スル取扱規則

明治二十六年十二月十一日

内務省訓令第二十三號

警視廳 北海道廳 府 縣

集治監 土木監督署 衛生試驗所

臨時橫濱港築局

當省所管出納官吏身元保證金納入及拂戻等ニ關スル取扱規則左ノ通相定メ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

内務省所管出納官吏身元保證金納付及拂戻等ニ關スル取扱規則

第一條 出納官吏會計規則第百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保證金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之レニ納付書ヲ添ヘ所屬長官ヲ經由シテ内務大臣ニ納付スヘシ

第二條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ所屬長官ノ認可ヲ得タル後土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書ニ通テ製シ所屬長官ヲ經由シテ内務大臣ニ進達スヘシ

第三條 内務大臣ハ前條ノ申出ニ依リ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ北海道廳長官府縣知事ニ命シ登記

内務省所管出納官吏身元保證金納付及拂戻等ニ關スル取扱規則

下巻 三九

法第二十一條ノ手續ヲ代理セシムヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ土地ノ登記ヲ了シタルトキハ其書入證書ヲ內務大臣ニ進達スヘシ

第五條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札付ノ儘之ヲ金

庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ書入證書ヲ添へ所屬長官ヲ經由シテ之ヲ內務大臣ニ納付スヘシ

第六條 出納官吏身元保證金ヲ納付シタルトキハ內務大臣ハ其納付金額ニ對スル納付濟證ヲ調製シ所

屬長官ヲ經由シテ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第七條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ依リ身元保證金ヲ納付スルモノハ左ノ期限ニ依ル但本

人ノ便宜ニ依リ數回分ヲ合セテ前納シ若クハ納付殘額ヲ一時ニ皆納スルコトヲ得

四期納付ノ分

第一期 六月末日マテ 第二期 九月末日マテ 第三期 十二月末日マテ 第四期

三月末日マテ

毎月納付ノ分

毎月末日マテ

第八條 出納官吏土地若クハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第

三條及第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルハ妨ケナシ

第九條 出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證

書ヲ預ケ入レタル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

第十條 會計規則第百十條ニ依リ身元保證金ノ拂戻シヲ要スルトキハ出納官吏ハ所屬長官ヲ經由シテ

責任解除ヲ得タルコトヲ內務大臣ニ證明シ身元保證金ノ拂戻シヲ請求スヘシ

第十一條 身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ內務大臣ヨリ所屬長官ヲ經由シテ保管證書又ハ

書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ內務大臣其書入證書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ書

入レノ解除ヲナス爲メ登記法第二十三條ノ手續ヲ代理セシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ

前項保管證書又ハ書入證書ハ身元保證書ノ納付濟證ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ返付スヘシ

第十二條 前條ニ依リ北海道廳長官府縣知事ニ於テ土地書入解除ノ手續ヲ了シタルトキハ其旨內務大

臣ニ具申スヘシ

第十三條 會計規則第百五條ニ依リ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ

所屬長官ヨリ會計検査院判決書ノ寫ヲ添ヘテ其旨ヲ內務大臣ニ具申スヘシ

前項ノ場合ニ於テ內務大臣ハ出納官吏身元保證金(土地公債證書ハ公債ノ後)ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ

控除シ所屬長官ヲ經由シテ其旨ヲ出納官吏ニ通知スヘシ

第十四條 內務大臣ハ會計規則第百五條第二項ノ場合ニ於テ土地公債證書ヲ公賣シタルトキハ同時ニ

所屬長官ヲ經由シテ出納官吏ニ對シ公賣公告入費ノ辨償ヲ命スヘシ

第十五條 會計規則第百五條第三項及ヒ第百六條ノ場合ニ於テ所屬長官ハ直ニ其辨償追徴ノ手續ヲ履

行シ其顛末ヲ內務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 會計規則第百八條ニ依リ身元保證金ノ追納ヲ要スルトキハ所屬長官ニ於テ其期限ヲ定メ出

納官吏ニ通達シ其旨內務大臣ニ具申スヘシ

第十七條 數職ヲ兼ヌル出納官吏ノ身元保證金ハ各職毎ニ區別シ納付スヘシ

第十八條 二人以上連帶責任ヲ有スル出納官吏ノ身元保證金ハ各其納金額ヲ各自ニ區別シ納付スヘシ

第十九條 本規則中身元保證金納付書以下ノ書式ハ左ノ如シ

(以下略ス)

○金庫規則

明治二十二年十二月十一日
勅令第百二十六號

朕金庫規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

金庫規則

第一條 金庫ハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トス
第二條 金庫ヲ分テ左ノ三種トス

第一 中央金庫

第二 本金庫

第三 支金庫

第三條 東京ニ中央金庫ヲ置キ地方ニ本金庫及支金庫ヲ置ク

本金庫支金庫ノ位置及各金庫ノ出納區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 金庫ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第五條 中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ支金庫ヲ總轄ス但本金庫ヲ置カサル地方ノ支金庫ハ中央金庫之ヲ總轄ス

第六條 中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

第七條 日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店出張店又ハ代理店ヲ設

二十八年九月
令第百二十九
號ヲ以テ第三
條以下改正

置スヘシ

第八條 日本銀行ノ支店長出張店長又ハ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人トシテ其ノ事務ヲ分擔スヘシ

但代理店ノ支店ニ於テ金庫ノ事務ヲ取扱フトキハ代理店長其支店長ニ代理ノ事務ヲ委嘱スヘシ

第九條 日本銀行ハ第七條ニ據リ各地ノ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス

第十條 大藏大臣ハ検査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ検査スルコトヲ得

此場合ニ於テハ日本銀行本支店出張店代理店タル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ検査スルコトアルヘシ

第十一條 日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

第十二條 金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ検査規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○預金規則

明治十八年五月三十日
太政官布告第十三號

預金規則左ノ通制定ス

預金規則

第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシム

第一 「逕遞局」貯金

第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金

第三 社寺教會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其請願ニ據ルモノ

金庫規則 預金規則

- 第二條 預リ金取扱手續ハ「大藏卿」之ヲ定ム
- 第三條 預リ金ノ利子割合「大藏卿」之ヲ定ム
- 第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 預リ金ノ證書ハ買賣讓與又ハ書入質入スルヲ得ス
- 第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス
- 第七條 「大藏卿」ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
- 第八條 預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○預金取扱規程 明治二十六年九月二十日

大藏省令第十九號

明治二十三年大藏省令第三十三號預金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

- 預金取扱規程
- 第一條 明治十八年布告第十三號明治二十三年法律第七十五號ニ依ル預金ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 預ケ人ニ於テ預ケ金ヲ爲ストキハ現金ニ第一號書式ノ拂込書及第二號書式ノ印鑑ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但第二回以後ノ預ケ金ヲ爲ス場合ニハ印鑑ヲ要セス
- 第三條 金庫ニ於テ前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ケ人ヘ交付スヘシ

- 第四條 預ケ人ニ於テ預金ヲ以テ公債證書ノ購入ヲ請求スルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク該預リ金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ
- 第五條 大藏省ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ニ送付スヘシ
- 第六條 大藏省ニ於テ預金制限超過額ヲ以テ公債證書ヲ購入スル場合ニハ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ
- 第七條 中央金庫ニ於テ前二條ニ依リ日本銀行ヨリ公債證書ヲ領收シタルトキハ第六號書式ノ保管證書ヲ調製シ之ヲ取扱金庫ヘ送付スヘシ
- 第八條 預ケ人ニ於テ公債證書購入濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ式ノ如ク保管證書領收ノ證印ヲ爲シ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出シ該通帳ニ購入代價ニ對スル預金仕拂ノ記入證印ヲ受ケ保管證書ヲ受取ルヘシ
- 第九條 預ケ人ニ於テ預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第七號書式ノ領收證書ニ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ
- 第十條 金庫ニ於テ前條ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヘ式ノ如ク記入調印シ現金ノ仕拂ヲ爲スヘシ
- 官立學校及圖書館會計規則第四條ニ依ル預金ノ拂戻額及公債證書購入代金トシテ仕拂額ハ同會計資金部歳出豫算額ニ超過スルヲ得ス(二十七年三月省令第六號ヲ以テ追加)
- 第十一條 預ケ人ニ於テ公債證書全部ノ受戻ヲ請求スルトキハ保管證書ヘ式ノ如ク裏書ヲ爲シ第八號書式ノ請求書ト共ニ中央金庫ヘ差出スヘシ

第十二條 預ケ人ニ於テ公債證書ノ内幾分受戻ヲ請求スルトキハ第九號書式ノ請求書ニ第十號書式ノ領收證書及保管證書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ヘ差出スヘシ
中央金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲ爲シ該公債證書ト共ニ返付スヘシ

第十三條 中央金庫ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ保管ノ公債證書ヲ交付スヘシ

第十四條 前條ノ遞送費ハ預ケ人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ遞送ヲ要スルモノハ相當ノ郵便切手ヲ前以テ中央金庫ヘ送付シ其他ノ便ニヨルモノハ遞送賃金先拂ヲ以テ遞送スヘシ

第十五條 預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシテ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ
預ケ人ハ毎年六月預金通帳ヲ其預ケ入ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ利子元加ノ記入ヲ受クヘシ

第十六條 元金ニ加ヘサル預金ノ利子ハ預金ノ全額ヲ拂戻ストキニ限り之カ仕拂ヲ爲スモノトス
預ケ人ニ於テ前項ノ利子ヲ受取ラントスルトキハ第十一號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十七條 大藏省ハ前條第二項ノ請求書ニ依リ第十二號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ預ケ人ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第十八條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ仕拂ヲ受クヘシ

第十九條 預金ハ預ケ入タル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セス

預金ハ拾錢未滿ノ端金ニ利子ヲ附セス

第二十條 第七條ニ依リ領收シタル公債證書ノ利子ハ中央金庫ニ於テ受取リ取扱ノ金庫ヲシテ之ヲ其所有主ノ預金ニ組入レンメ第十三號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ

第二十一條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ金額預ケ入ノ記入ヲ受クヘシ

第二十二條 預ケ人ニ於テ預金全額ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ返付スヘシ

第二十三條 預ケ人ニ於テ甲ノ金庫ヨリ交付シタル預金通帳ヲ以テ乙ノ金庫ニテ受渡ヲ請求スルトキハ第十四號書式ノ申込書及印鑑ニ預金通帳ヲ添ヘ乙金庫ヘ差出シ番記號ノ書換ヲ受クヘシ

第二十四條 預金ノ受渡ニ關スル書類ニハ共有ニ係ルモノハ其總代人二名調印シ又社寺教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲ爲シ其擔當者一名記名調印スヘシ但法人タル會社ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セス

第二十五條 前條ノ社寺教會會社ニシテ名義變更改印位置移轉シタルトキハ其旨金庫ヘ届出ヘシ擔當者總代人氏名變換改印轉住ノトキ又同シ

前項改印ノ届書ニハ印鑑ヲ添フヘシ
第二十六條 前條ノ擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ

○預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

明治二十三年八月二十七日
法律第七十五號

朕預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 預金規則第一條第二第三ニ依リ預金局ニ預リタル金額三百圓以上ニ達スルトキハ預ケ人ノ請求ニ依リ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得
- 第二條 前條預金ノ額二千圓ヲ超過スルトキハ預金局長ハ其超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得
- 第三條 前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ全額ヲ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除クノ外所有者ノ望ニ依リ之ヲ預金局ニ保管スルコトヲ得
- 第四條 本法ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

○保管金規則 明治二十三年一月四日 法律第一號

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

保管金規則

- 第一條 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス
- 第二條 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス
- 第三條 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス
- 第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス
- 第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス
- 第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

○保管物取扱規程 明治二十六年九月二十日 大藏省令第二十號

明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

- 第一條 明治二十三年勅令第二號明治二十六年勅令第七十號ニ依ル金錢有價證券ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 現金又ハ有價證券ハ權利者ヨリ寄托スルモノト官廳ヨリ寄托スルモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フヘシ
- 第三條 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄托セシムルトキハ第一號書式ノ寄托通知書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ
- 第四條 權利者ハ現金又ハ有價證券ニ前條ノ寄托通知書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ差出スヘシ
- 第五條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

第六條 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄托スルトキハ第三號書式ノ送付書ヲ製シ之ヲ現金又ハ有價證券ニ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ

第七條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ領收證書ヲ製シ之ヲ寄托官廳ヘ交付スヘシ

第八條 官廳ニ於テ數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取纏メ寄托スルトキハ其送付書ニ第五號書式ノ仕譯書ヲ添付スヘシ

但權利者不分明ナル者ハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書ニ記入スヘシ

第九條 取扱官廳ハ本規程ニ依リ現金又ハ有價證券等受渡ノ證明ニ供スル爲メ豫メ其廳及取扱主任官ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スヘシ應印ノ更改主任官ノ改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テモ亦同シ

有價證券ニ屬スル利札交付ノトキ其受渡ヲ證明スル爲メ權利者ハ有價證券寄托ノ際印鑑ヲ金庫ヘ差出シ置クヘシ

第十條 權利者ニ於テ其寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲ爲シタル保管證書ヲ得テ金庫ヘ差出シ之カ拂戻ヲ請求スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書アル保管證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十二條 權利者ニ於テ官廳ヨリ寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シ其取扱官廳ニ請求スヘシ取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ金庫ニ宛タル第六號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ヘ差出シ現金又ハ證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ハ前條ノ拂渡證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂渡ヲ請求スル者アルトキハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十四條 政府ノ所有ニ歸シタル保管金ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一 保管證書ヲ發シタルモノハ取扱官廳ニ於テ該證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ歳入トシテ金庫ヘ納付セシムヘシ

一 保管證書ヲ發セサルモノハ大藏大臣ノ令達ニ依リ金庫ニ於テ歳入ヘ編入スヘシ

第十五條 取扱官廳ニ於テ保管金ノ幾分ヲ歳入ト爲シ又ハ幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ金庫ニ請求スヘシ

第十六條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ新ニ保管證書ヲ製シ舊保管證書ト交換スヘシ

第十七條 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之カ計算ヲ爲スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子ノ拂渡ヲ請求スルトキハ第七號書式ノ請求書ヲ取扱金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十八條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第八號書式ノ通知書ヲ製シ取扱官廳ヲ經テ權利者ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ其寄托シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ交付ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ徵シ之ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

第二十條 保管證書又ハ領收證書ヲ亡失シタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ保管ノ證明方ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ニ於テハ第十一號書式ノ證明書ヲ製シ之ヲ官廳又ハ權利者ヘ交付スヘシ

保管證書又ハ領收證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ之カ引換ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ハ更ニ保管證書又ハ領收證書ヲ製シ舊證書ト交換スヘシ

第二十一條 官廳ニ於テ金庫ヘ寄托シタル保管金ニシテ權利移轉又ハ其他ノ事故ノ爲メ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日(本文期滿失効ノ年月日トハ各其據ルヘキ)ニ變更ヲ生スルトキハ即日其旨ヲ金庫

ヘ通知スヘシ(二十七年省令第
一號ヲ以テ追加)

附則

第二十二條 前條保管金ニシテ本令發布以前既ニ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日ニ變更ヲ生シタルモノハ明治二十七年二月廿八日迄ニ當該官廳ヨリ其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ(同上)

第二十三條 金庫ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ調査シ全ク期滿失効トナリタルモノハ計算書ヲ作り明治二十七年三月三十一日迄ニ當該官廳ニ送付シ其證明ヲ受ケ之ヲ整理スヘシ(同上)

○政府ニテ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スル件

明治二十三年一月四日
勅令第百四十五號

朕政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私

有金ハ總テ大藏省預金局ニ寄托スヘシ
法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

○供託規則 明治二十三年七月二十五日
勅令第百四十五號

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託規則

第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二條 供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨリ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬

府政ニテ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スル件 供託規則

供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

五四

○供託物取扱規程

明治二十六年九月二十日
大藏省令第二十一號

明治二十三年大藏省令第三十九號供託物取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

供託物取扱規程

第一條 明治二十三年勅令第四百四十五號ニ依リ保管スル供託物ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 供託者ニ於テ金錢有價證券ヲ寄托セントスルトキハ其物件ニ左ノ事項ヲ記載シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但金錢ト有價證券トハ各別ニ供託書ヲ調製スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名若シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ其官廳名官氏名

第二 金錢ハ其金額有價證券ハ其種類記號番號券面ノ金額枚數

但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製添付スルモ妨ケナシ

第三 供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項

供託ノ事由

但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲ爲ストキハ尙其件名及其裁判所名ヲ記スヘシ

第四 年月日

第三條 金庫ニ於テ前條ノ供託書ヲ受ケタルトキハ其物件ヲ供託書ニ照シ之ヲ受領シ其一通ニ受領ノ

旨記載捺印シ供託者ヘ交付スヘシ

第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄托スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ金錢ハ寄托スヘキ金庫所在ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ送金手形若クハ爲換券等ヲ以テ寄托スルコトヲ得

第五條 金庫ニ於テ前條ノ送金手形若クハ爲換券ヲ以テ寄托ヲ受ケタルトキハ之ヲ其現金ニ交換シタル後テ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 供託者ニ於テ供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ分割シタル供託書各二通ヲ調製シ第二號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ

第七條 金庫ニ於テ前條ノ分割請求ヲ受ケタルトキハ更ニ差出シタル供託書ニ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲シ新受領證ヲ舊受領證ト引換ニ交付スヘシ

第八條 供託者ニ於テ有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ノ受取方ヲ要スルトキハ第三號書式ノ請求書ニ通テ調製シ委任狀ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ

第九條 金庫ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償還金利子又ハ配當金ヲ受取リタルトキハ償還金ハ代供託物トシ利子又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ領收シ請求書ノ一通ニ受領ノ旨記載捺印シ請求者ヘ交付スヘシ

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ請求スルトキハ其事由ヲ記載シタル第四號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ金庫ヘ請求スヘシ

其全部拂戻ノトキハ式ノ如ク與書ヲ爲シタル受領證幾分拂戻ノトキハ第五號書式ノ受取證ヲ差出スヘシ但供託者ニ於テ返戻ヲ受クル場合ニ官廳ノ證明書ヲ要スルモノハ其證明書ヲ第四號請求書ニ添付スヘシ

供託物取扱規程

下卷 五五

第十一條 裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ
 第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ調製シ之ヲ受取人
 へ交付スヘシ

第十二條 受取人ニ於テ前條ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ其末尾ニ式ノ如ク領收ノ旨記載捺印シ之ヲ
 金庫ヘ差出シ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ニ於テ第十條及第十二條ノ拂渡又ハ返戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託物ヲ受取人へ交
 付スヘシ

金庫ニ於テ裁判所ノ通知ニ依リ供託物ノ全部ヲ一時ニ拂渡ストキハ式ノ如ク奥書ヲ爲シタル第三條
 及第九條ノ受領證ト引換ニ託供物ヲ受取人へ交付スヘシ

金庫ニ於テ裁判所ノ通知ニ依リ供託物ノ内幾分ヲ拂渡ストキハ其送付ヲ受ケタル第三條及第九條ノ
 受領證ニ式ノ如ク内渡ノ旨記入捺印シ受取人ヨリ第五號書式ノ受取證ヲ徴シ其供託物ヲ交付スヘシ

第十四條 供託者ニ於テ明治二十六年十一月三十日以前ニ屬スル供託金ノ利子ヲ受クルニハ其元金仕
 拂ノ後テ第八號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ

金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十五條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第九號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ請求人へ交付シ請求書
 ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第十六條 請求人ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知
 書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ仕拂ヲ受クヘシ
 (以下書式略ス)

○供託物取扱順序 明治二十三年十二月二十八日 大藏省訓令第五百五十五號

供託物取扱順序左ノ通相定ム

供託物取扱順序

第一條 各地金庫ニ於テ供託物寄託ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託書ニ其物件ヲ照査シ式ノ如ク記載證
 印シ二通ノ間ニ割印ノ上一通ハ供託者ニ交附シ一通ハ金庫ニ存置シ其寫ヲ預金局ヘ送付スヘシ

第二條 各地金庫ニ於テ銀行送金手形又ハ郵便爲替券ヲ以テ寄託ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ引替ヘ
 前條ノ手續ヲナスヘシ但現金不渡ノトキハ渡シ先ノ證明ヲ受ケ供託書ト共ニ之ヲ返附スヘシ

第三條 各地金庫ニ於テ分割ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託書ヲ第一條又ハ第五條ノ受領證ニ照合シ更
 ニ第一條ノ手續ヲナスヘシ但最前ノ受領證ニハ式(規程第一條)ノ如ク記入ノ上金庫ニ存置シ分割請求書
 ハ預金局ヘ送付スヘシ

第四條 各地金庫ニ於テ寄託ニ係ル有價證券ノ償還金利子又ハ配當金受取方ノ請求ヲ受ケタルトキハ
 請求書及委任狀ニ其證券又ハ利賦札ヲ添ヘ預金局ヘ送付スヘシ但其地ニ於テ受取ルヘキモノハ證券
 又ハ利賦札ヲ添付スルニ及ハス

第五條 預金局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ金員領收ノ手續ヲ了シ請求書ニ式ノ如ク記載證印
 ノ上其金庫ヘ送付シ金庫ニ於テハ式(規程第三條)ノ如ク附記證印シ請求人へ交付スヘシ

第六條 前條償還金利子又ハ配當金ノ内各地ニ於テ受取方ヲ要スルモノハ預金局長ヨリ之ヲ其地ノ
 金庫ヘ委託スヘシ

第七條 各地金庫ニ於テ前條ノ委託ヲ受ケタルトキハ其銀行又ハ會社ニ就キ金員ヲ領收シ直ニ第一號ノ報告書ヲ預金局ヘ送付スヘシ

第八條 預金局ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ第四條ノ請求書ニ式ノ如ク記載證印ノ上之レヲ其金庫ヘ送附シ金庫ニ於テハ式ノ如ク附記證印シ請求人ヘ交附スヘシ

第九條 各地金庫ニ於テ供託物全部拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ第一條又ハ第五條ノ受領證及請求書ニ式(規程第一號式乙印同第三號式甲印及同第四號式甲印)ノ如ク記入證印ノ上其物件ヲ拂戻シ受領證ハ金庫ニ存置シ請求書ハ預金局ヘ送附スヘシ

第十條 各地金庫ニ於テ供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ第一條又ハ第五條ノ受領證ニ式(規程第一號式丙印同第三號式乙印)ノ如ク記載證印ノ上其物件ト共ニ返附シ受取證及請求書ニ式(規程第五號式甲印同第四號式乙印)ノ如ク記載シ受取證ハ金庫ニ存置シ請求書ハ預金局ヘ送附スヘシ

第十一條 各地金庫ニ於テ分割拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證ヲ請求書ニ照合シ式(規程第七號式甲印同第六號式甲印)ノ如ク記入ノ上其物件ヲ拂戻シ拂戻證ハ金庫ニ存置シ其寫ヲ預金局ヘ送附スヘシ

第十二條 各地金庫ニ於テ供託金利息仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其請求書ヲ預金局ヘ送附スヘシ

第十三條 預金局ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ利息證券ヲ調製シ之レヲ請求人ヘ送附スルト同時ニ其報知書ヲ其金庫ヘ送附スヘシ

第十四條 各地金庫ニ於テ供託金利息仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ報知書ニ照合シ報知書及利息證券ニ第二號書式ノ如ク記入シ其金員ヲ仕拂ヒ利息證券ハ金庫ニ存置シ報知書ハ預金局ヘ送附スヘシ

第十五條 各地金庫ニ於テ毎日受ケ入レタル供託金ハ預金受渡事務順序第二十八條ニ依リ其仕拂金ハ同第二十九條ニ據リ取扱フヘシ

第十六條 各地金庫ニ於テ受ケ入レタル供託金償還金利息及配當金ハ預金受渡事務順序第三十一條ニ據リ預金受入簿ニ記入シ其仕拂金ハ同第三十二條ニ據リ預金拂戻簿同第三十三條ニ據リ預金拂戻豫算額差引簿ニ記入スヘシ

第十七條 各地金庫ニ於テ寄託ヲ受ケタル有價證券ハ之レヲ其金庫ニ保管シ第三號書式ノ有價證券受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ記入スヘシ

第十八條 各地金庫ニ於テ有價證券受拂簿ニ依リ第四號書式ノ有價證券受拂報告表ヲ調製シ支金庫ニ於テハ毎日日本金庫(中央金庫ニ關スル)ヘ本金庫ニ於テハ毎五十ノ日(月末大ノ月ハ三十一日二月ハ二十八日若クハ二十九日)支金庫ヨリ送附スル所ノ報告表ヲ添ヘ預金局ヘ送附スヘシ

第十九條 供託物ニ關スル書類ノ記號ハ預金ノ記號ヲ用ヒ其番號ハ預金及保管金ト區分シ更ニ番號ヲ附スヘシ但報告表ニハ記號ノ上ニ供託ノ文字ヲ附スヘシ
(書式略ス)

○中央備荒儲蓄金會計規則 明治二十三年五月十二日 勅令第七十七號

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央備荒儲蓄金會計規則

第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歲入トス

第一 預金利息

第二 米穀賣拂代

第三 雜收入

第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス

第一 府縣備荒儲蓄金補助

第二 米穀購入代

第三 米穀運送費

第四 糶摺及搗精費

第五 米穀保存及取扱費

第六 藏敷料及諸手数料

第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細書ヲ調製シ毎年度ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ寄托トシテ直ニ之ヲ預金局ニ拂込ヘシ

第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ仕拂ヲ執行セシムヘシ

第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未済トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請求ナキモノハ支出未済トシテ其定額ヲ順次翌年度ヘ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少クモ三日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第十二條 收入官吏仕拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規程ハ總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

○中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ノ件 明治二十三年三月十七日 法律第二十一號

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中央備荒儲蓄金、預金局預金、郵便貯金預所貯金、郵便爲替金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 中央備荒儲蓄金ハ預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第三條 備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般

ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第四條 預金局預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ
殘餘アルトキハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 預金局預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシ
テ之ヲ拂出スヘシ

第六條 郵便貯金預貯所貯金ハ預金局ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ

第七條 郵便爲替ヲ取扱フ爲メ特ニ爲替資本ヲ置キ從來ノ資本額ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八條 郵便條例第四百七十七條第三項ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金ハ一般ノ歳入ニ組入ル
ヘシ

第九條 預金局預金郵便貯金預貯所貯金、郵便爲替金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但
勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○會計検査院法

明治二十二年五月九日
法律第十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計検査院法

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査
官補二十二員及尉若干員ヲ置ク(二十九法律第九
十號ヲ以テ改正)

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラ
ルコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長
ヲ以テ議長トス

第十條 議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス
一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ
二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

- 三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
- 四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
- 五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ
- 第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
- 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
- 三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
- 四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

- 一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
- 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ
- 三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必

要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本廳長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本廳長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本廳長官之ヲ減免ス

ルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得

得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

租稅

○地租條例

明治十七年三月十五日太政官布告第七號
明治二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ改正

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二十七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本

條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島「函館縣」沖繩縣「札幌縣」根室縣「ハ當分從前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押掘、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林、及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

地租條例

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ツヘシ
地目變換ノ土他ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條

第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス
第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之
ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケ
タル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲
ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在
ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ
前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下
年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ歛下年期

ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本
條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 (削除)

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ
繼年期ヲ許可ス

第十九條 歛下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其ノ被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス
海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年
期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他
ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年
期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼
年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノ
トス

地租條例

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逃脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例施行細則 明治二十二年十二月二十九日 大藏省令第十九號

地租條例施行細則左ノ通定ム

地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス。

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ
公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供

スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非ラサルモノニ限ル
鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル
禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地
鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ
一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ分ノ十分一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マ
ヲ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨
ツ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用ユ

市街宅地ノ丈量ハ厘未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ
分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若クハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係ルモノハ適宜
之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルコ
トヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス

第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノ
ハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス

畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入
ス

崖高ノ地其崖脚中ノ鉄入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス

田畑宅地内ニ別地目ノ項少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス

第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ又實地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願届書ニ記入スルモノトス

前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ選ミ調理セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了ス可シ(二十四年三月大藏省令第六號ヲ以テ本條中更正)

第十條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ著手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス

第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項届書ニ開墾著手ノ年月ヲ記載ス可シ

第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徴租額ハ犯罪發覺ノ日即チ其月分ヨリ計算ス

第十五條 條例中地方廳へ差出ス可キ願届書式ハ府縣知事之ヲ定ム

○地租條例及地租條例施行細則取扱方 明治二十二年十二月二十九日 大藏省訓令第七十六號

地租條例及地租條例施行細則取扱方左ノ通心得可シ

第一條 條例第三條ノ收場ニシテ從來敷地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシム可シ但搾乳營業ノ爲メ獸類ヲ養育スル場所ハ此限ニ在ラス

第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除ス可シ

第三條 施行細則第四條ノ検査ヲ爲スニ方官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其齟齬ナキヲ視認メタル上著手ス可シ

第六條 條例第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與スヘキモノト視認ルトキハ其狀況ヲ具シ當省へ稟議ス可シ

第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願届書ニ丈量野取圖ヲ添附セシム可シ

第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ歸シタル土地アルトキハ地租組換ノ手續ヲ爲ス可シ

第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地臺帳地目欄内本地目ノ傍ニ記入ス可シ

○地租徵收期限 明治二十四年三月十四日 法律第二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス

但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

地租條例及地租條例施行細則取扱方
地租徵收期限

二十四年三月
大藏省訓令第
二十九號ヲ以
テ第三條但書
ヲ第四條第五
條及第六條中
之條ニ削除ス
字例ノ下二三

第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人戸主ノ死亡、失踪、但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス 時價相當價格千分ノ二
 - 三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ十
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一
 - 六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル
- 第四條 船舶ノ登記ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 新規登録 十五噸未満ノ船舶 金五十錢
 - 二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
 - 三 除籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢
 - 四 登録事項ノ變更 十五噸以上ノ船舶 每一件金十錢
 - 一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未満ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 地價千分ノ二十
 - 二 地價ノ設定共有 地價千分ノ十
 - 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
 - 四 開墾 地價千分ノ十
 - 五 鐵下年期付與 地價千分ノ十
 - 六 地價据置年期付與 地價千分ノ十
 - 七 鐵下年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 八 新開免租年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 九 低價年期ノ付與 地價千分ノ十
 - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
 - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ五
- 第六條 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル
- 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
 - 二 合名會社、合資會社資本増加 增加資本金額千分ノ二
 - 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額万分ノ二
 - 四 株式會社設立 設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三
 - 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三

- 六 株式會社支店設置
現在拂込資本金額万分ノ三
- 七 登記事項ノ變更資本ノ增加及拂込登記ヲ除ク追加
每一件金三圓
- 八 解散
每一件金一圓
- 第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録 金二十圓
 - 二 登録換 金十圓
 - 三 取消ノ請求 金一圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録
 - 醫師 金二十圓
 - 藥劑師 金十二圓
 - 獸醫 金十二圓
 - 蹄鐵工 金五圓
 - 假開業醫師 金五圓
 - 假免許獸醫 金三圓
 - 二 登録事項ノ變更 每一件金五十錢
- 第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録

- 甲種船長 金十五圓
- 甲種一等運轉手 金十圓
- 甲種二等運轉手 金六圓
- 甲種一等機關手 金十五圓
- 甲種二等機關手 金十圓
- 乙種船長 金十圓
- 乙種一等運轉手 金六圓
- 乙種二等運轉手 金四圓
- 乙種一等機關手 金十圓
- 乙種二等機關手 金六圓
- 小形船機關手 金四圓
- 水先人 金二十圓
- 二 登録事項ノ變更 每一件金五十錢
- 第十條 版權ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 普通ノ文書、圖書 一種毎ニ金五圓
 - 二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書、圖書 一冊毎ニ金二圓五十錢
 - 三 雜誌ノ類 一冊毎ニ金五十錢
 - 四 興行權ヲ併有スル脚本 一種毎ニ金五十圓
 - 五 興行權ヲ併有スル樂譜 一種毎ニ金二十圓